

5 試験研究

5.1 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

地球温暖化は、今や主要な環境問題の一つになりつつある。地球温暖化は単に気温が上昇するという現象に止まらない。降水量への影響や自然環境への影響、健康影響など人間の生活基盤に様々な影響を与える。当初、温暖化による影響は北極海における急激な氷の減少や、海面上昇による低海拔島嶼への浸水などが注目されたが、近年徐々に日本や埼玉県など中庸な気候の地域にもその影響が広がりつつあり、一部は顕在化している。

埼玉県は国内でも特に夏場に高温となる地域として知られている。平成19年8月16日には熊谷気象台で日本の気象官署・アメダスにおける最高気温40.9℃を記録した。また、熊谷気象台の明治30年以降の気温上昇は100年に換算し1.97℃となり、気象庁が発表した日本の平均気温の上昇率1.15℃より高い。この様な埼玉県で起きている極端な高温や急激な昇温現象は、地球規模の温暖化だけではなく、都市部の気温が郊外より高くなるヒートアイランド現象との複合的な影響により引き起こされていると考えられる。いずれにせよ埼玉県の昇温傾向は顕著であり、様々な影響も現れはじめている。

埼玉県ではこれまでも地球温暖化対策地域推進計画に基づき、様々な温暖化対策を行ってきたが、平成21年2月には、中期的温室効果ガス削減目標と実現のための施策を示した「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050－埼玉県地球温暖化対策実行計画－」を策定した。また、ヒートアイランド現象対策としては、平成21年3月には「埼玉県ヒートアイランド現象対策ガイドライン」を策定し、具体的なヒートアイランド現象対策を示した。

この様に、埼玉県では、近年、今まで以上に積極的な温暖化対策やヒートアイランド対策が展開されている。これらの状況に呼応し、埼玉県環境科学国際センターでは、平成22年4月に温暖化対策研究に本格的に取り組むため新たな担当として「温暖化対策担当」を設置した。温暖化対策担当では、他の担当が行ってきた二酸化炭素やフロン類など温室効果ガスのモニタリングや、ヒートアイランド現象の把握を目的とした詳細な温度調査を引き継いで実施するとともに、新たに、環境省の資金を獲得し、法政大学、東京農工大学、農業環境技術研究所、東京都、神奈川県、長野県などと共同で、「地域社会における温暖化影響の総合的評価と適応策に関する研究」を開始し、他の担当とも協力しながら温暖化による地域農作物への影響評価手法の開発や、影響予測モデルを利用した農作物への温暖化影響予測に取り組んでいる。

(2) 大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、大気汚染物質の固定及び移動発生源の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の達成率が向上し、ともに平成19年度以来環境基準を100%達成し継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は依然として0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位である。また、平成21年9月に環境基準が設定された微小粒子状物質についても環境基準を達成できない見通しで、その対策は急務である。一方、近年は地域的な環境問題だけでなく、地球規模の環境問題が懸念されており、地球温暖化やオゾン層破壊などが注目されるようになったことから、従来は大気環境分野の一環としてこれらの課題について扱ってきたが、平成22年度からは温暖化対策担当を設置して担当することとなった。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。このほか環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。

埼玉県5ヶ年計画(ゆとりとチャンスの埼玉プラン)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の環境濃度低下が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、独自の自主研究課題として、あるいは環境部大気環境課等と連携した行政令達課題として、光化学大気汚染を重点的な対象として、その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質の環境動態を総合的に調査研究している。広域大気環境に関しては、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。また、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、平成22年6月に改正された新しい測定法を含め、新たな汚染を引き起こさないための監視という面で行政を支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。

これらの研究遂行のため、国立環境研究所、電力中央研究所、埼玉大学、早稲田大学、愛媛大学、大阪市立大学、高崎経済

大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(3) 自然環境担当

近年の僅か数十年間で急速に地球環境が劣化した。人類生存のための国際的規範となった「持続可能な社会」の実現には地域生態系の保全が不可欠であり、首都圏埼玉の重要な責務でもある。自然環境担当では、持続可能な社会の基盤となる健全で多様な生態系の保全を目指して、以下の研究分野に取り組んでいる。

①生物多様性の現況、変化の把握、②動植物に及ぼす開発や汚染の影響評価、③生物的自然の持つ環境保全機能評価、④生物の保全、環境制御手法

これらの課題は全て埼玉県環境基本計画で、「恵み豊かで安心・安全な地域社会の実現」、「持続可能な循環型社会の構築」の項に位置づけられており、関連する自然環境課、大気環境課、水辺再生課、農業政策課と、令達事業を受託すること等で連携している。

平成22年度は自主研究課題として、「希少野生動植物の遺伝的多様性評価に関する研究—ムサシトミヨのDNAマーカーの開発—」、「熱中症予防対策のための簡易な大気熱環境指標の検討」の2課題に取り組んだ。

また、行政令達事業としては、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種(ムサシトミヨ、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ等)を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父の気象観測モニタリングとシカの食害等を調査する「野生生物保護事業」、光化学スモッグの植物影響を調査する「大気汚染常時監視運営管理事業」、「小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ事業効果を評価する魚類調査」、「川の国埼玉「水辺再生100プラン事業効果を評価する男堀川魚類調査」、軟弱野菜の光化学オキシダント被害軽減技術について検討する「光化学オキシダントによる軟弱野菜の被害軽減技術の確立」の6課題に取り組んだ。他機関との連携では、国立環境研究所とのC型共同研究として「オゾンによる植物被害とその分子メカニズムに関する研究」、「ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発」の2課題及び電力中央研究所が中心となって進めている環境省地球環境研究総合推進費事業「気温とオゾン濃度上昇が水稲の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究」、埼玉大学が中心となって進めている(独)日本学術振興会科学研究費補助事業「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」、「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく環境汚染評価法の開発」にそれぞれ取り組んだ。

さらに、県民に対する環境学習支援として、県民参加の環境調査や講演、小学校等での総合学習支援、動植物観察会の講師等に積極的に取り組み、平成22年度はこれらを総計で40回以上実施した。

(4) 資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当では、産業廃棄物及び一般廃棄物について国や埼玉県が推進する循環型社会形成に向けた施策を支援するとともに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究を実施している。廃棄物の中間処理、最終処分、再資源化に伴う環境保全上の支障低減化、不法投棄廃棄物やそれにより発生する様々な支障の除去を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。行政令達業務は、最終処分場の管理に関する業務、不法投棄や産業廃棄物の山についての対策等が中心となっているが、平成22年度はアスベスト建材に関係した調査業務や廃棄物の不適正処分に伴って発生した有害ガス対策、および廃棄物撤去などの新たな事案への対応を行った。

廃棄物の焼却処理や破砕選別処理、そして埋立処分について安全・安心が求められており、そのための調査・研究を継続している。最近では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心に処理するための埋立資材の開発を始め、環境浄化を見据えた工学的な要素を取り込んだ研究を行ってきた。近年は廃棄物処理技術、再資源化についても地球温暖化対策の視点も加え、埼玉県の地域性を考慮して調査・研究を行っている。また、首都圏に位置する埼玉県では、不法投棄が後を絶たないが、それによる生活環境保全上の支障や廃棄物の除去方法、さらに有害物質の汚染範囲や有害ガス、温暖化ガスの発生状況を現場で迅速に推定するための技術開発を積極的に行っている。

また、文部科学省や環境省からの外部資金による研究を以前から行っており、現在、建設廃棄物の高度選別技術の開発や堆積廃棄物の斜面安定性評価、物理探査技術適用による最終処分場の適正管理に関する研究、さらには農業地域のカスケード型資源循環システムの構築等を当センター単独あるいは国立環境研究所等と共同で実施している。

自主研究のうち、「PRBシステムを応用した廃棄物最終処分場浸出水の場内浄化システムの構築」「廃棄物最終処分場における地球温暖化ガスの発生量に関する研究」は、最終処分に関するものである。また、「廃棄物処理における省エネと温室効果ガスの発生抑制」では、廃棄物処理による温室効果ガスの排出を削減するための方向性について研究しようとするものである。これらの研究は、埼玉県の廃棄物処理政策に対して提言が行えるように意識した内容となっている。

(5) 化学物質担当

埼玉県環境基本計画では「恵み豊かで安心・安全な地域社会の実現」のため、展開すべき施策の一つとして「化学物質対策の推進」を掲げている。化学物質担当では、ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術や処理技術の改良・開発に関する調査研究を実施している。

近年、残留性の高い化学物質や未規制の有害化学物質による環境汚染が懸念され始めている。そのため、今後はモニタリングを中心とした調査・研究だけでなく、環境動態の解明、リスク評価など解析を含めた分野へのアプローチも重要である。また、新たに注目される環境汚染物質を高精度で測定する方法の開発や、化学物質による環境汚染解消のため、低コストで省エネ型浄化技術などの開発が必要である。

自主研究事業は、①高い環境残留性が懸念されている有機フッ素化合物について県内の汚染状況や起源を明らかにするため「県内の河川におけるPFOS、PFOAとその前駆物質の汚染実態の把握」、②近年、新たなダイオキシン類の発生源として注目されているカオリン粘土について、それらのダイオキシン類濃度と粘土製品の製造過程におけるダイオキシン類の挙動を明らかにするため「カオリン及び関連粘土中のダイオキシン類分布調査と環境負荷量推定」の2つの研究事業を実施した。

行政令達事業は、古綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る同一水塊水質調査と水位変動時調査、定例的業務としてダイオキシン類発生源調査（排水水、排ガス、ばいじん等）、ダイオキシン類環境調査（大気、土壌）、県立学校等の小型焼却炉撤去に係るダイオキシン類調査、工業団地周辺における化学物質調査を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため、農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる精度管理を行った。

環境国際貢献プロジェクト事業のうち、「太湖の汚染底泥の無害化・資源化事業」の支援事業として、上海交通大学との共同研究を行い、太湖の底質試料とそれを無害化・資源化処理した試料のダイオキシン類を分析するとともに、環境中の挙動について解析した。また、同支援事業の一環として、太湖を水源とし、上海市内を流れる蘇州河と黄浦江流域（揚子江デルタ）のダイオキシン類調査を上海大学と共同で行った。

(6) 水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で一位である。河川環境については、昭和30年代後半以降の急激な都市化の進行に伴い水質汚濁が大きな問題になったが、水質規制の強化や水処理技術の進歩、下水道の整備及び合併浄化槽の普及等により、汚濁状況は着実に改善してきた。そこで、水質のみならず、豊かな環境を再生し、県民の誰もが川に愛着をもち、ふる里を実感できるよう、県では平成19年11月に「川の国埼玉 川の再生基本方針」を定め、「川の国埼玉」をキャッチフレーズに様々な事業に取り組んでいる。

水環境担当では、県内の水環境を保全し、里川の再生を推進していくことを目標に活動している。公共用水域（河川）では、環境基準点の水質調査を継続して実施し、基準超過の場合には原因究明のための追跡調査を行っている。また、河川では異常水質事故の発生件数が毎年200件以上あり、原因不明時に緊急の分析等を行っている。特に平成21年度は、夏期の高気温が原因と思われる河川での淡水赤潮が頻発し、これら水質汚濁現象に対する迅速な対応が求められた。県内各地で開催される環境学習やイベントでは、多くの県民に里川の再生を身近に感じてもらえるよう工夫し、水環境に関する講演や水質浄化の実験等を行った。

研究事業では、環境基本計画の施策展開として掲げられる“河川等の環境の保全、創造”に対応した課題を中心に取り組んでいる。水環境の汚濁特性に関する研究として、新たな汚濁である河川の発泡・ぎらつき現象の解明、生態影響等のリスクが懸念される紫外線吸収剤の実態把握、水環境の水質を予測する汚濁負荷解析モデルの開発等を行った。水環境の修復及び水処理技術に関する研究として、水質浄化やバイオアッセイなど多角的に活用ができる淡水大型二枚貝の効率的生産方法、傾斜土槽法による生活系排水の簡易・効率的な水処理技術の開発、下水処理プロセスからの温室効果ガス発生抑制の検討を行った。これら研究を推進するために、大学、企業、研究機関と連携する他、外部資金の獲得を積極的に行い、国内及び海外での学会等で研究成果を公表している。また、国際貢献活動の一環として、中国吉林省での環境技術セミナーに研究員を派遣し、排水処理技術に関する講義を行った。

(7) 土壌・地下水・地盤担当

土壌・地下水・地盤担当は、平成22年4月に旧地質地盤・騒音担当が改組されてきた新しい担当である。旧地質地盤・騒音担当においては4名の職員のうち3名が所内のプロジェクトチームである土壌・地下水汚染対策チームに参加し、かつ同チームのチームリーダーを務めるなど土壌・地下水汚染対策に係る業務に力を入れてきたこと、また県内の複数の地域で土壌・

地下水汚染に関する問題が発覚し業務が増大したことなどを背景としてこのような改組が行われたものである。こうした背景から業務内容は旧地質地盤・騒音担当の業務と土壌・地下水汚染対策の業務を併せたものとなっている。ただし後者については広汎な汚染物質への対応が必要となるため、同一の研究領域に属する水環境担当や土壌・地下水汚染対策チームとも連携をとりながら業務を行っている。

具体的な業務内容は概ね、①土壌・地下水汚染に関する調査研究、②地質地盤情報の収集・管理・解析、③地質地盤被害に関する調査・研究、④騒音振動公害に関する調査に分けることができる。

①については水質汚濁防止法に基づく地下水の常時監視、土壌・地下水汚染発覚時の発生源特定等のほか、現場対応型簡易分析システムの開発などに関する研究を行っている。②については、県が保有する地下情報(ボーリングデータ)をデータベース化した「地質地盤インフォメーションシステム」を運用し、県土整備部等と連携して同システムに搭載する資料の収集・管理を行うとともに、関係課所への情報提供を行っている。また、地下の構造情報を用いた詳細解析を施して地域ごとの環境特性の相違(例えば地震時の揺れ方の相違、自然界由来の土壌中重金属類の地域特性)を明らかにするなどデータの高付加価値化を図っている。近年は地球温暖化問題に関連し、低炭素社会の実現に向けて石油等の化石燃料から、太陽光や地熱等の再生可能エネルギーへの転換が叫ばれていることから、新たに、再生可能エネルギーのひとつである低温地熱資源に関する情報の収集整備及び地域特性解析に関する研究を開始している。この研究の一環として、県内の地盤沈下観測井を対象に地下深度方向の温度分布の実測調査を行ったところ、ほぼすべての調査地点において、地表面付近での温度上昇傾向が確認された。これは地球温暖化や都市のヒートアイランド現象などによる気温上昇の影響が地下温度にまで及ぶことを意味し、一部の観測井を対象に行った詳細解析では、過去の地表面の温度上昇の影響が地下数十メートルにまで及んでいることが明らかとなっている。③については、地下水汚染や地震など、その地域の地質地盤と密接に関連する問題に対処するために、地下情報の取得に必要な物理探査技術について、その適用方法の検討や新たな探査技術の開発などに取り組んでいる。④については、騒音振動公害の未然防止を目的とした新たな対策技術の開発や、水環境課及び市町村と連携して苦情を解決するための調査・技術指導などを行っている。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

| テーマ名・期間 | 目的 | 担当者 | 概要 |
|--|--|--|------|
| 地球温暖化物質の精密モニタリングに関する研究 (平成12年度～22年度) | 温室効果ガスである大気中の二酸化炭素をWMO標準ガスを基準として観測し、濃度の経年変化や季節変化、局地的な汚染の把握、対策の効果等について検討する。また、上記の解析結果や二酸化炭素濃度の速報値をWEB上で公開し、県民を対象に情報発信を行うものである。 | 武藤洋介 | 109頁 |
| 温暖化および大気環境変化が埼玉県の植物に及ぼす影響予測 (平成22～23年度) | 温暖化および光化学オキシダント濃度上昇等の大気環境変化が、農作物などの植物に及ぼす影響を県以下レベルの空間スケールで定量的に評価すること。これにより地域ごとの適切な対策の検討・立案における科学的根拠を行政に提供するだけでなく、「わが町の影響はどうか？」という県民の問いに対する科学的な答えを提供する。 | 増富祐司 嶋田知英 三輪誠 米倉哲志 金澤光 竹内庸夫 門野博史 | 110頁 |
| 自然環境データベースのGISによる構築・運用－自然環境変遷の把握とその影響－ (平成22～24年度) | 埼玉県の同一箇所多時期GISデータを対象に解析を行い、埼玉県の土地利用や自然環境の変遷などを把握し整理する。また、その様な変遷の影響についても検討を行うとともに、得られた成果はインターネット等を利用し県民に提供する。 | 嶋田知英 増富祐司 三輪誠 | 111頁 |
| 環境基準の設定を踏まえた大気中微小粒子状物質の特性解明 (平成21～23年度) | 平成21年9月、大気中微小粒子状物質(PM2.5)の環境基準値が告示された。本研究では、PM2.5の標準測定法に基づいた測定を実施し、騎西地域のPM2.5の実態を明らかにするとともに、これまで継続してきたPM2.5の週単位の測定を行い、測定値の比較を行い、測定値の再評価や課題を明らかにする。 | 米持真一 梅沢夏実 | 112頁 |
| 希少野生動植物の遺伝的多様性評価に関する研究－ムサシトミヨのDNAマーカーの開発－ (平成20～22年度) | 絶滅危惧魚類ムサシトミヨの保全策を講じるため、その基礎的情報のひとつとして、生息地における遺伝的多様性の現状把握は不可欠である。しかしながら、現段階では、その把握手法を持ち合わせていない。そこで、本研究では、ムサシトミヨの遺伝的多様性を解析するためのDNAマーカーを開発し、生息地への適用を目指す。 | 三輪誠 金澤光 王効拳 米倉哲志 | 113頁 |
| 熱中症予防対策のための簡易な大気熱環境指標の検討 (平成22～23年度) | 近年の埼玉県などの都市域において、夏季における熱中症問題が顕在化している。そこで、生活環境の中における熱環境の実態を把握するとともに、一般の人々が利用しやすい、主に気温や相対湿度を用いた熱中症予防対策のための簡易な大気熱環境指標を検討する。 | 米倉哲志 松本利恵 嶋田知英 増富祐司 米持真一 竹内庸夫 | 114頁 |
| PRBシステムを応用した廃棄物最終処分浸出水の場内浄化システムの構築 (平成19～23年度) | 大規模埋立実験装置を用いて、PRBによる浸出水の場内浄化の実験を行う。また、埋立層内部の化学物質挙動を解明し、新しいコンセプトによる最終処分の設計案を構築する。 | 渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護 | 115頁 |
| 廃棄物最終処分場における地球温暖化ガスの発生量に関する研究 (平成20～22年度) | 埼玉県内の廃棄物最終処分場から放出される温室効果ガス量の測定方法を検討し、実測値からガス放出量を概算する。また、処分場廃止に係るガスモニタリング方法を提案する。 | 長森正尚 渡辺洋一 | 116頁 |
| 廃棄物処理における省エネと温室効果ガスの発生抑制 (平成21～23年度) | 一般廃棄物処理の現状と課題を抽出するとともに、今後のごみ処理広域化におけるエネルギー投入・コスト・温室効果ガス排出量削減の3つの視点から、望ましい循環型社会システムを提示することを目的とする。 | 倉田泰人 川寄幹生 長谷隆仁 鈴木和将 | 117頁 |

| テーマ名・期間 | 目的 | 担当者 | 概要 |
|--|---|--|------|
| 県内の河川におけるPFOS、PFOAとその前駆物質の汚染実態の把握（平成20～22年度） | 有機フッ素化合物(PFOS、PFOA)及びそれらの前駆物質の分析方法を確立し、県内の河川における濃度レベルを把握する。さらに、それらの化学物質の由来を明らかにする。 | 茂木守 野尻喜好 細野繁雄 | 118頁 |
| カオリン及び関連粘土中のダイオキシン類分布調査と環境負荷量推定（平成22～23年度） | 国内各地で産出するカオリン及び関連粘土についてダイオキシン類の濃度分布調査を行うとともに、陶磁器製品の原料である粘土の加熱実験を基に、窯業に係る含有ダイオキシン類の挙動、マスバランスを明らかにする。 | 堀井勇一 野尻喜好 大塚宜寿 蓑毛康太郎 細野繁雄 | 119頁 |
| 淡水大型二枚貝の多元的活用に関する基礎的研究－二枚貝の稚貝供給手法の検討－（平成22～24年度） | 大型二枚貝ドブガイ(イシガイ科)は、水質及び生態系の長期的安定化や供試動物(バイオアッセイ、指標生物)として、環境分野で多元的活用が期待できる。稚貝の安定確保に必要な個体成長環境(餌条件)を検討する。 | 田中仁志 木持謙 | 120頁 |
| 埼玉県内に生息する魚介類に対する環境中の紫外線吸収剤の生態リスク評価及びヒトの暴露量に関する研究（平成20～22年度） | 環境中の紫外線吸収剤の分析方法を確立するとともに、県内の水域における濃度の把握及び水生生物への蓄積状況を把握する。さらに、これらの結果を用いて水生生物へのリスク評価やヒトの食物を介した経口摂取量の推定を行う。 | 亀田豊 金澤光 | 121頁 |
| 水環境診断ツールを活用した河川流域汚濁負荷解析モデルの構築（平成20～22年度） | 栄養塩類等の管理を視野に入れた水環境関連データのデータベース構築や河川汚濁負荷解析を実施するとともに、River Water Quality Model No.1を基礎とした河川水質モデルを構築することにより、汚濁原因の解明と水環境関連施策を講じた場合の水質改善効果の予測を可能とする。 | 柿本貴志 高橋基之 嶋田知英 | 122頁 |
| 活性汚泥モデルの活用による下水処理プロセスからの温室効果ガス発生抑制の検討（平成21～23年度） | 温室効果ガスの発生抑制が課題とされる下水処理施設において、活性汚泥モデルを適用する。これにより、下水処理プロセスの物質反応を把握すると同時に、削減可能なエネルギー量を算定し、それに伴う温室効果ガスの発生抑制効果を検討する。 | 見島伊織 柿本貴志 | 123頁 |
| 河川・池沼表面水の水質汚濁特性評価と発泡・ぎらつき現象の原因解明（平成21～23年度） | 親水性の観点から問題となる発泡・ぎらつき現象の発生状況を調査する。ぎらつき現象の原因判別手法の構築を行い、自然由来の物質が原因と推測される河川での発泡現象の解明を行う。 | 池田和弘 見島伊織 柿本貴志 高橋基之 | 124頁 |
| ムサシトミヨ生息域における生活雑排水を対象とした簡易・効率的な水処理技術の開発と実証（平成20～22年度） | 県の魚ムサシトミヨが生息する熊谷市内の元荒川源流域は、周辺地域の宅地化の進行により、生活排水を中心とした水質汚濁が進行している。本研究では、ムサシトミヨ生息のために満足すべき水質等について検討するとともに、生息域において、生活雑排水を主な対象とし、傾斜土槽法等を活用した簡易・効率的な水処理技術の開発と実証試験を行う。 | 木持謙 金澤光 高橋基之 王効挙 亀田豊 柿本貴志 | 125頁 |
| 環境被害の軽減を目的とした地域地震動特性の解析と詳細情報の整備（平成20～22年度） | 埼玉県内の地域地盤ごとの地震動特性を明らかにするために、県内の地下構造モデルを用いた解析を行う。また、県内の地震観測記録を用いて、地域ごとの揺れ方の相違について検討を行う。 | 白石英孝 濱元栄起 八戸昭一 石山高 | 126頁 |
| 地質地盤インフォメーションシステムの運用と地域環境特性の解析－地質地盤汚染評価支援システムの構築－（平成19～22年度） | 本研究では地質地盤インフォメーションシステムに土壌や地質中の重金属含有量等に関するデータベース機能を拡充し、環境行政に有用なシステムの実現可能性を検討する。今年度は、特に、重金属類に関する地域特性解析を実施する。 | 八戸昭一 石山高 濱元栄起 高橋基之 白石英孝 | 127頁 |

| テーマ名・期間 | 目的 | 担当者 | 概要 |
|---|--|-------------------------------------|------|
| 沖積堆積物からの重金属類溶出特性の解析と海成堆積物の簡易判別法の開発（平成21～23年度） | 埼玉県南東部地域に広く分布する海成堆積物を対象として、海成堆積物からの重金属類溶出特性の把握、海成堆積物の簡易迅速な判別法の開発、重金属類溶出抑制法などを検討する。 | 石山高 佐坂公規 長森正尚 見島伊織 八戸昭一 | 128頁 |
| 低温地熱資源整備を目的とした地中熱利用地域特性解析（平成21～23年度） | 再生可能エネルギーである地中熱を利用する際に必要な低温地熱資源に関する基礎資料を整備するために、テストエリア内の地下構造や熱物性を調査収集するとともに、地域特性解析を実施する。 | 濱元栄起 八戸昭一 白石英孝 石山高 | 129頁 |

5.2.2 外部資金研究

| テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 | 概要 |
|--|--|-----------------------------|------|
| 環境省 環境研究総合推進費 「ゼオライトろ床と植栽を組み合わせた里川再生技術の開発」 (平成21～23年度) 研究代表:環境科学国際センター | 高機能窒素吸着型ゼオライトと植栽を組み合わせた里川再生技術の開発と持続的維持管理手法の研究開発を、実河川サイトで行う。浄化効率や維持管理性等の浄化施設の視点と、水生生物等の生息・産卵場所や植栽基盤としての有効性等のビオトープの視点の両面から研究開発を進める。また、他サイトへの適用も見据えた仕様設計のための知見を蓄積する。 | 木持謙 金澤光 | 130頁 |
| 環境省 環境研究総合推進費 「気温とオゾン濃度上昇が水稻の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究—水稻の生育時期別オゾン感受性の評価—」 (平成20～22年度) 研究代表:電力中央研究所 | 水稻の収量等に及ぼすオゾンや気温上昇の単独および複合影響を実験的に解明するとともに、分子マーカーを探索し、新しい影響評価手法の開発を行うことを目的とした3機関による共同研究で、主に、日本の水稻品種のオゾン感受性の差異を検討するとともに、生育時期によるオゾン感受性の違いや、施肥によるオゾン感受性の違いなどを明らかにし、水稻の収量等に及ぼすオゾン影響の緩和策・回避策を検討している。 | 米倉哲志 嶋田知英 三輪誠 | 130頁 |
| 環境省 環境研究総合推進費 「温暖化影響・適応政策に関する総合的研究—埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究—」(平成22～26年度) 研究分担代表:東京農工大学 | 地域レベルの温暖化対策を推進するためには、地域の脆弱性を考慮した戦略が必要となる。しかし、現在、地域の温暖化影響すら十分把握されているとは言えない。そこで、地域性が高く温暖化影響を受けると考えられる農作物に注目し、「温暖化による地域農作物への影響評価の検討」を行う。また、埼玉県における過去から現在に至る温暖化影響の実態把握を目指し、「埼玉地域における温暖化影響観測指標の設定と将来動向に関する研究」を実施する。 | 嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 三輪誠 | 131頁 |
| 環境省 環境研究総合推進費 「温暖化影響・適応政策に関する総合的研究—不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価—」(平成22～26年度) 研究分担代表:農業環境技術研究所 | 日本全国を対象として、米および米以外の作物への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を、予測の不確実性を考慮に入れて広域的に評価する。当センターは主として予測の不確実性を考慮に入れた影響評価および不確実性低減手法の開発を行う。 | 増富祐司 三輪誠 米倉哲志 | 131頁 |
| 環境省 環境研究総合推進費 「わが国都市部のPM2.5に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価」(平成22～24年度) 研究代表:電力中央研究所 | 二次粒子成分を中心に大気質モデルのPM2.5濃度再現性を向上し、大気質モデルをわが国のPM2.5対策検討に「使える」ツールとして確立する。そのため、首都圏において多地点同時観測を実施し、時間的・空間的に密な二次生成成分濃度データを取得し、ガス・粒子分配比の地域差や輸送途上での変質過程を明らかにする。 | 長谷川就一 米持真一 | 132頁 |

| テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 | 概要 |
|---|--|---------------------|------|
| 環境省 環境研究総合推進費 「水生・底生生物を用いた総毒性試験と毒性同定による生活関連物質評価・管理手法の開発—水・底質試料中のパーソナルケア製品等の濃度測定と総毒性への寄与率の評価—」(平成22～24年度) 研究代表:徳島大学 | 生活排水や下水放流水の寄与が大きい下水道普及率の異なる河川を選定し、水と底質を採取して水生・底生生物を用いた毒性試験を実施して総毒性を評価する。同時に同じ水・底質試料について生活関連汚染物質濃度の一斉分析測定結果と各物質の毒性試験結果とを合わせて、寄与率の高い物質を同定・定量することで生活関連汚染物質の管理・低減策に活用する。 | 亀田豊 | 132頁 |
| (独) 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST) 「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築—水・バイオマス資源のカスケード型循環システムの構築—」(平成21～26年度) 研究代表:高知大学 | 全体研究は以下の研究からなる。(1)資源創出とN ₂ O排出抑制を同時に実現する面的植物浄化・水再生システムの構築、(2)農業地域に適した分散型水・資源再生システムの開発、(3)農業地域における水・バイオマス資源のカスケード型循環利用システムの構築、(4)面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価。本機関は、他機関と協力し、本全体研究で開発する(1)～(3)の諸技術から構成する全システムの環境負荷、経済等の全体評価を分担研究する。 | 長谷隆仁 | 133頁 |
| (独) 科学技術振興機構 研究成果最適展開支援事業(A-STEP) 「化学分析による水道管の老朽化診断手法の開発」(平成22年度) 研究代表:茨城大学 | 水道管ネットワークから水道水を採取し、化学分析をすることにより、水道管の老朽化診断手法の基盤を開発する。 | 見島伊織 | 133頁 |
| (独) 日本学術振興会 科学研究費補助金 「大都市とその郊外におけるサブミクロン粒子の特徴と磁気的特性」(平成21～23年度) | 粒子状物質中に含まれる重金属は、発生源に関する情報を知る重要な手がかりとなる。本課題では、土壌粒子の影響を大幅に低減できるサブミクロン粒子中の金属成分に着目し、磁気的な性質に着目した評価を行う。 | 米持真一 梅沢夏実 王効挙 | 134頁 |
| (独) 日本学術振興会 科学研究費補助金 「有機質土を利用した海成層中重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術の開発」(平成22～24年度) | 近年、日本各地で海成層由来の土壌汚染が顕在化し始めている。本研究では、有機質土を利用した海成層中有害重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術を開発する。 | 石山高 八戸昭一 | 134頁 |
| (独) 日本学術振興会 科学研究費補助金 「建設廃棄物破碎残さからのアスベスト濃縮手法の構築」(平成22～24年度) | 石綿含有成形板が他の建設系廃棄物とともに、破碎された場合、希釈される等の要因から、現在のJIS法で検出することは困難を伴う。そこで、本研究は建設廃棄物破碎残さに着目し、残さ中の石綿繊維を風力及び比重差を利用して濃縮する手法を検討する。 | 川寄幹生 | 135頁 |
| (独) 日本学術振興会 科学研究費補助金 「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」(平成22～24年度) 研究代表:埼玉大学 | 大規模ヒートアイランドとその影響による気象災害や大気汚染に関して、①関東平野規模の空間スケールにおける既存データ解析、②都市内と都市圏外にわたるマイクロ・マクロの観測、③都市熱環境モデルと地域気象・大気汚染モデルの融合による機能の向上を目的とした4機関による共同研究で、①のテーマにおいて埼玉県内を対象とし広域気温調査などを実施している。 | 米倉哲志 嶋田知英 | 135頁 |

| テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 | 概要 |
|--|--|---------------------|------|
| 文部科学省 科学研究費補助金 「大気微小粒子中炭素成分の炭化補正簡便法の開発と濃度変動評価」(平成22～23年度) | 主要な大気微小粒子成分である炭素成分の従来測定法となっている熱分離法の大きな問題点である有機炭素の炭化を補正する光学補正法の簡便法を開発し、高価な熱分離・光学補正法の装置導入が困難でも、より正確な炭素成分の測定を可能にする。これにより、過去および現在の炭素成分の時間的・空間的変動を再評価するとともに、地域的な発生源寄与の検討を行なう。 | 長谷川就一 | 136頁 |
| 文部科学省 科学研究費補助金 「最終処分場の適正管理のための廃棄物の電気的特性評価方法の確立」(平成21～22年度) | 非破壊的かつ2次元的に地下構造の調査が可能である比抵抗探査を用いて、廃棄物最終処分場の内部状況を調査する。さらに、最終処分場でのボーリングにより採取した廃棄物試料の電気伝導率や間隙率などの物理的・化学的物性値を測定し、廃棄物の比抵抗値に影響を与える因子を把握し、比抵抗探査の解釈精度の向上を試みる。 | 磯部友護 | 136頁 |
| 文部科学省 科学研究費補助金 「粘土資源利用に伴うダイオキシン類の環境動態と天然生成メカニズム解明に関する研究」(平成22～24年度) | ダイオキシン類の自然発生源である「カオリン粘土」に着目し、産業活動に伴う粘土資源の収支と含有するダイオキシン類の挙動解明及び環境負荷量の推定を試みる。さらに地質学、地球化学的手法を用いて、カオリン粘土中ダイオキシン類の起源及び生成メカニズムの解明を試みる。 | 堀井勇一 | 137頁 |
| 文部科学省 科学研究費補助金 「疎水性有機汚染物質の生物利用性に与える溶存有機物質の影響評価」(平成22～23年度) | 水環境および排水中の溶存有機物質が持つ、疎水性有機汚染物質の生物利用性を低減させる効果を定量的・体系的に評価し、バイオアッセイによる水質管理に有用な情報を提供する。 | 池田和弘 | 137頁 |
| (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく光化学オキシダントの作物環境影響評価法」(平成22～24年度) | 本研究では、秒オーダーの極短時間における植物の葉などの生長挙動を、サブナノメートルの分解能で連続的に計測できる光干渉法に基づいたシステムを用いて、植物の環境に対する形態的応答を知ることにより、新しい植物の環境ストレスモニタリング技術を確立する。本技術を作物に適用することにより、その環境ストレス応答を評価するとともに、早期に生育や収量への影響を予測する手法を開発する。具体的な環境汚染物質として、光化学オキシダントの主成分であるオゾンに焦点を絞り、イネなどの作物に対するオゾンストレスを早期にかつ定量的に評価することを目的とした実証研究を行う。 | 門野博史 三輪誠 米倉哲志 | 138頁 |
| 環境省 循環型社会形成推進科学研究費補助金 「不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価」(平成22～24年度) 研究代表:(財)産業廃棄物処理事業振興財団 | 本研究は、産業廃棄物の不法投棄等の不適正処分のうち、堆積廃棄物の斜面崩壊の危険がある現場を対象として、崩壊の危険性(斜面安定性)についての評価方法を研究、開発するものである。 堆積廃棄物の斜面安定性については、確立した評価方法が無い状況にあるため、土質力学に基づく地盤の斜面安定性の評価方法(円弧すべり解析等)を援用するなどして類推しているのが現状であるため、廃棄物堆積現場での載荷・崩壊実験等により、堆積廃棄物の崩壊現象を把握し、土質力学的手法の適用性や適用限界について検討する。 | 川寄幹生 | 138頁 |
| 環境省 循環型社会形成推進科学研究費補助金 「高度省エネ低炭素社会型浄化槽の新技术・管理システム開発」(平成22～24年度) 研究代表:福島大学 | 現状の浄化槽のイニシャル・ランニングコストを最小化すると同時に、従来の化石エネルギー利用を極力減じ、自然エネルギーを最大限に活用する既存電力ハイブリッドを導入した、炭酸ガス、メタン、亜酸化窒素の排出抑制可能な低炭素社会型対応型省エネルギー型の高度化新技术・管理システム構築のための開発を行う。 | 木持謙 | 139頁 |

| テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 | 概要 |
|--|--|------|------|
| (社)日本下水道協会下水道振興基金 「雨天時汚濁負荷の変動に伴うN ₂ O発生モデル化と多面的環境負荷削減効果の検討」 (平成22年度) | 雨天時の汚濁負荷変動に伴うN ₂ O発生の変動をモデル化することで、温室効果ポテンシャルや富栄養化ポテンシャルの変化を解析し、雨天時下水処理システムの最適化の検討を行う。 | 見島伊織 | 139頁 |
| (財)クリタ水・環境科学振興財団 「沖縄サンゴ礁生態系における化粧品及び高分子製品由来の紫外線吸収剤による白化現象リスクの推定とそれに基づくビーチにおける紫外線吸収剤適切利用方法提言に関する基礎的研究」 (平成22年度) | レクリエーションで使用される紫外線吸収剤及び安定剤は水生生物への悪影響が懸念されている。そこで、日本の貴重な生態系である珊瑚が存在する沖縄ビーチにおける水質、底質中紫外線吸収剤23種類の年間汚染状況をビーチの利用特性別に把握し、レクリエーションによる排出特性を把握する。一方で、サンゴの暴露量推定及び、ホシズナ、オニヒトデ等を用いたサンゴ中蓄積濃度を推定する。最終的に、レクリエーション活動量、サンゴの暴露濃度、蓄積濃度との関連性を明確にし、紫外線吸収剤の使用量削減案や代替物質使用案を提唱する。 | 亀田豊 | 140頁 |

5.2.3 国際共同研究

| 相手方・テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 |
|---|---|---------------------|
| 中国・上海大学 「大都市とその郊外におけるサブミクロン粒子の特徴と磁気的特性に関する研究」 | 上海市内及び郊外で、粒径別に採取した粒子状物質に含まれる重金属に着目し、各成分の濃度及び地点、粒径別の特徴について検討を行うとともに、日本との比較を行う。 | 米持真一 |
| 中国・上海交通大学 「太湖汚染底泥の無害化・資源化に関する研究」 | 太湖の水質を改善するには、流入排水対策はもちろんであるが、底泥の浚渫も重要な対策である。有害化学物質や有害金属等を高濃度に含む底泥にあつては、浚渫した底泥の無害化が必要となる。そこで、太湖で採取した底泥を用い、無害化処理の実証試験を実施して、適用性と実効性を評価する。 | 大塚宜寿 王効挙 堀井勇一 |
| 中国・上海大学 「揚子江デルタの有害化学物質に関する研究」 | 上海市内の代表的な河川であり、太湖を水源とする蘇州河を対象に、アルキルフェノール類等の内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン類による河川底泥の汚染レベル及び汚染の特徴を把握し、環境リスクを評価する。 | 茂木守 大塚宜寿 王効挙 |
| 中国・山西農業大学 「土壌汚染修復技術に関する研究」 | 農用地の土壌汚染に対し、農用地土壌としての機能を維持しつつ修復する工法として、植物を用いた汚染の修復(ファイトレメディエーション)を選択し、汚染された実圃場に適用して有効性を評価する。修復に使用する植物は、栽培、生育管理、種子入手の容易さから農作物とし、圃場の気候風土に適した植物を選択した。 | 細野繁雄 石山高 王効挙 |
| 中国・清華大学 「アジアのメガシティにおけるオゾンと2次粒子の生成メカニズムに関する研究」(平成21～23年度) 研究代表:国立環境研究所 | アジアのメガシティにおける大気中のオゾン・2次粒子汚染について、日本の測定分析や大気汚染モデルの技術と中国の発生源調査技術や都市汚染情報を組み合わせ、オゾンと2次粒子の汚染特性、排出実態、発生メカニズム、発生源種別寄与などを総合的に解明し、両国のメガシティにおける都市大気汚染制御のための科学的知見を共有する。 | 長谷川就一 |

| 相手方・テーマ名・期間 | 研究の概要 | 担当者 |
|---|--|-------|
| メキシコ・国立環境研究研修センター 「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」(平成22～26年度) 研究代表:愛媛大学 | メキシコにおける大気中のオゾン、VOC、PM2.5の生成メカニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナリオを提言する。そのため、オゾンやPM2.5の環境動態を日本とメキシコを中心に解明し二国間に共通な側面や地域独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾン、VOC、PM2.5の生成メカニズムを明らかにする。 | 長谷川就一 |

5.2.4 行政令達

| 事業名 | 目的 | 担当 | 関係課 | 概要 |
|-----------------------------------|--|-------------------|--------|------|
| 有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(地球環境モニタリング調査) | 地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。 | 温暖化対策担当 自然環境担当 | 大気環境課 | 142頁 |
| ヒートアイランド現象対策事業 | 本県におけるヒートアイランド現象の詳細な実態を把握する。 | 温暖化対策担当 自然環境担当 | 温暖化対策課 | 142頁 |
| 地理環境情報システム整備事業 | 環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。 | 温暖化対策担当 | 温暖化対策課 | 143頁 |
| 有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(酸性雨調査) | 大気降下物による汚染の実態とその影響を把握し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的とする。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 143頁 |
| 有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(有害大気汚染物質調査) | 有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 144頁 |
| 有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(炭化水素類組成調査) | 近年増加傾向である光化学オキシダントの発生源要因を精査するために、原因物質である炭化水素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握する。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 144頁 |
| NOx・PM総量削減調査事業 | 県内のPM2.5の汚染実態を把握するとともに、二次粒子の生成において寄与割合の大きい前駆物質を測定し、削減対策の基礎データを得ることを目的とする。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 145頁 |
| 工場・事業場大気規制事業 | 工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における揮発性有機化合物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 145頁 |
| 大気環境石綿(アスベスト)対策事業 | 石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するための調査を行う。 | 大気環境担当 自然環境担当 | 大気環境課 | 146頁 |

| 事業名 | 目的 | 担当 | 関係課 | 概要 |
|-----------------------------------|--|----------------------------|--------------|------|
| 揮発性有機化合物対策事業 | 光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物(VOC)の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。 | 大気環境担当 | 大気環境課 | 146頁 |
| 騒音・振動・悪臭防止対策事業 | 騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。 | 大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当 | 水環境課 | 147頁 |
| 化学物質環境実態調査事業 | 一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。 | 大気環境担当 水環境担当 化学物質担当 | 大気環境課(環境省委託) | 147頁 |
| 大気汚染常時監視運営管理事業(光化学スモッグによる植物影響調査) | 光化学スモッグ(主としてオゾン)が植物に及ぼす影響を把握するため、オゾンの指標植物であるアサガオを用いて、県内におけるその被害分布と経年変化を調査する。 | 自然環境担当 | 大気環境課 | 148頁 |
| 希少野生生物保護事業 | 県の魚ムサシミヨが自然状態で安定的に生息できるように、元荒川の水源を維持するとともに、種の保存、危険分散に係わる試験研究を実施し、ムサシミヨ生息地における遺伝的多様性評価に係わる試験研究を行う。「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)、イモリ(両生類)について、保護管理事業の目標や、事業が行われるべき区域、事業内容等を定めた保護管理計画を策定するための生息状況調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ等について、個体の維持・増殖および危険分散を実施する。 | 自然環境担当 水環境担当 温暖化対策担当 | 自然環境課 | 148頁 |
| 水辺再生100プラン事業(御陣場川、男堀川、小山川に係る魚類調査) | 水辺再生100プラン事業の事業着手前の現状を把握するために、魚類調査を行う。この事業は環境部との連携を施策として位置づけており、水環境的な視点から解析評価し、今後の改善・方向性等について提言する。 | 自然環境担当 | 水辺再生課 | 149頁 |
| 小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡに係る魚類調査 | 小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡにおける御陣場川からの導水並びに低水路工の効果検証のために、魚類調査を実施し、現地の地形や植生を踏まえ、魚類生息状況全般に係る内容について提言する。 | 自然環境担当 | 水辺再生課 | 149頁 |
| 野生生物保護事業 | 野生生物保護に資するため、野生生物に関する各種情報をGISデータベースとして整備する。また、奥秩父雁坂付近原生林の気象観測を行うとともに、現在進行しているシカ食害状況を把握する。 | 自然環境担当 温暖化対策担当 | 自然環境課 | 150頁 |
| 農林総合研究センター研究事務事業 | 本県の主要農作物であるハウレンソウなどの軟弱野菜について、光化学オキシダント被害を軽減するための手法を検討する。 | 自然環境担当 | 農業政策課 | 150頁 |

| 事業名 | 目的 | 担当 | 関係課 | 概要 |
|--------------------------------------|--|------------|----------|------|
| 産業廃棄物排出事業者指導事業 | 最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設における廃棄物中アスベスト調査を行い、行政指導の支援を行う。 | 資源循環・廃棄物担当 | 産業廃棄物指導課 | 151頁 |
| 廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業 | 廃棄物の山が周囲に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要の調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。 | 資源循環・廃棄物担当 | 産業廃棄物指導課 | 151頁 |
| 廃棄物不法投棄特別監視対策事業 | 不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を軽減・除去する。 | 資源循環・廃棄物担当 | 産業廃棄物指導課 | 152頁 |
| 廃棄物処理施設検査監視指導事業 | 一般廃棄物処理施設(最終処分場及び焼却施設)の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。 | 資源循環・廃棄物担当 | 資源循環推進課 | 152頁 |
| 資源リサイクル拠点環境調査研究事業(埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖) | 環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。 | 資源循環・廃棄物担当 | 資源循環推進課 | 153頁 |
| 循環型社会づくり推進事業 | 一般廃棄物不燃ごみ及び粗大ごみの適正処理について検討する。 | 資源循環・廃棄物担当 | 資源循環推進課 | 153頁 |
| 新河岸川産業廃棄物処理対策事業 | 有機溶剤を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援する。 | 資源循環・廃棄物担当 | 河川砂防課 | 154頁 |
| ダイオキシン類大気関係対策事業 | ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基く立入検査等に伴って採取した排ガス、灰の検査を実施する。 | 化学物質担当 | 大気環境課 | 154頁 |
| 工場・事業場水質規制事業(ダイオキシン類) | ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。 | 化学物質担当 | 水環境課 | 155頁 |
| 土壌・地下水汚染対策事業(土壌のダイオキシン類調査) | 大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。 | 化学物質担当 | 水環境課 | 155頁 |
| 水質監視事業(ダイオキシン類汚染対策調査) | 環境基準を超過するものの、汚染源が不明となっている河川について、研究的な視点による調査、解析・考察を行う。 | 化学物質担当 | 水環境課 | 156頁 |
| 資源リサイクル拠点環境調査研究事業(ダイオキシン類調査(大気)) | 資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター、資源循環工場及び周辺地域の自然環境調査を継続的に実施し、自然環境の変化をモニタリングする。 | 化学物質担当 | 資源循環推進課 | 156頁 |

| 事業名 | 目的 | 担当 | 関係課 | 概要 |
|------------------------------|---|------------------------------|-----------------|------|
| 化学物質総合対策推進事業（工業団地等周辺環境調査） | PRTR法対象化学物質のうち、大気への排出量が多い化学物質を中心に、事業場周辺における環境濃度の実態を把握する。 | 化学物質担当 | 大気環境課 | 157頁 |
| 野生動物レスキュー事業 | 野鳥の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。 | 化学物質担当 | 自然環境課 | 157頁 |
| 県立学校等焼却炉撤去解体事業 | 県立学校等に設置されている小型焼却炉の撤去に先立って事前調査を行い、ダイオキシン類に係る解体・撤去作業員の曝露防止措置を決定する。 | 化学物質担当 | 教育局教育総務部 財務課 | 158頁 |
| 水質監視事業（公共用水域） | 県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。 | 水環境担当 | 水環境課 | 158頁 |
| 工場・事業場水質規制事業 | 工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析（クロスチェック）を行い、水質汚濁の防止に役立てる。 | 水環境担当 | 水環境課 | 159頁 |
| 水質事故対策事業 | 油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。 | 水環境担当 | 水環境課 | 159頁 |
| 里川づくり県民推進事業・水すましクラブ川の守り人育成事業 | 「里川」の再生を目指し、住民、河川浄化団体、学校、企業と自治体が協働し、家庭排水対策を中心とした県民運動としての河川浄化活動を推進する。 | 水環境担当 | 水環境課 | 160頁 |
| 水質監視事業（地下水常時監視） | 地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。 | 土壌・地下水・地盤担当 水環境担当 | 水環境課 | 160頁 |
| 土壌・地下水汚染対策事業 | 汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。 | 土壌・地下水・地盤担当 土壌・地下水汚染対策チーム | 水環境課 | 161頁 |

5.3 学会等における研究発表

5.3.1 論文

| 論文名 | 執筆者 | 掲載誌 | 抄録 |
|---|---|---|------|
| Foaming control by automatic carbon source adjustment using an ORP profile in sequencing batch reactors for enhanced nitrogen removal in swine wastewater treatment | M. Chen ¹⁾ , J.-H. Kim ²⁾ , M. Yang ¹⁾ , Y. Wang ¹⁾ , N. Kishida ³⁾ , K. Kawamura ⁴⁾ , R. Sudo | Bioprocess and Biosystems Engineering, Vol.33, No.3, 355-362 (2010) | 162頁 |
| Expansion of the dynamic range of statistical interferometry and its application to extremely short- to long-term plant growth monitoring | K. Kobayashi ⁴⁾ , H. Kadono | Applied Optics, Vol.49, No.32, 6333-6339 (2010) | 162頁 |
| スペックル相関法による植物生長測定 | 小林幸一 ^{4,5)} 、山口一郎 ⁵⁾ 門野博史、豊岡了 ⁴⁾ | 光学、Vol.39、No.4、202-208 (2010) | 162頁 |
| Observational constraints indicate risk of drying in the Amazon basin | H. Shiogama ⁶⁾ , S. Emori ⁶⁾ , N. Hanasaki ⁶⁾ , M. Abe ⁶⁾ , Y. Masutomi, K. Takahashi ⁶⁾ , T. Nozawa ⁶⁾ | Nature Communications, Vol.2, No.253, (2011) | 163頁 |
| 道路周辺のアンモニア・窒素酸化物濃度への自動車排出ガスの影響 | 松本利恵、米持真一、梅沢夏実、坂本和彦 ⁴⁾ | 地球環境、Vol.15、No.2、103-110 (2010) | 163頁 |
| 異なる測定法によるPM2.5測定結果の比較 | 米持真一、梅沢夏実、長谷川就一、松本利恵 | 大気環境学会誌、Vol.46、No.2、131-138 (2011) | 163頁 |
| Physicochemical characterization and cytotoxicity of ambient coarse, fine, and ultrafine particulate matters in Shanghai atmosphere | S. Lu ⁷⁾ , M. Feng ⁷⁾ , Z. Yao ⁷⁾ , A. Jing ⁷⁾ , Z. Yufang ⁷⁾ , M. Wu ⁷⁾ , G. Sheng ⁷⁾ , J. Fu ⁷⁾ , S. Yonemochi, J. Zhang ⁸⁾ , Q. Wang ⁴⁾ , K. Donaldson ⁹⁾ | Atmospheric Environment, Vol.45, No.3, 736-744 (2011) | 164頁 |
| PM2.5との通年並行観測による大都市郊外のサブミクロン粒子(PM1)の特性解明 | 米持真一、梅沢夏実 | 大気環境学会誌、Vol.45、No.6、271-278 (2010) | 164頁 |
| 大気質モデルの相互比較実験によるO ₃ 、PM2.5予測性能の評価－2007年夏季、関東の事例 | 森野悠 ⁶⁾ 、茶谷聡 ¹⁰⁾ 、速水洋 ¹¹⁾ 、佐々木寛介 ¹²⁾ 、森康彰 ¹²⁾ 、森川多津子 ¹³⁾ 、大原利真 ⁶⁾ 、長谷川就一、小林伸治 ⁶⁾ | 大気環境学会誌、Vol.45、No.5、212-226 (2010) | 164頁 |
| Contrasting diurnal variations in fossil and nonfossil secondary organic aerosol in urban outflow, Japan | Y. Morino ⁶⁾ , K. Takahashi ¹⁴⁾ , A. Fushimi ⁶⁾ , K. Tanabe ⁶⁾ , T. Ohara ⁶⁾ , S. Hasegawa, M. Uchida ⁶⁾ , A. Takami ⁶⁾ , Y. Yokouchi ⁶⁾ , S. Kobayashi ⁶⁾ | Environmental Science and Technology, Vol.44, No.22, 8581-8586 (2010) | 165頁 |
| Evaluation of ensemble approach for O ₃ and PM2.5 simulation | Y. Morino ⁶⁾ , S. Chatani ¹⁰⁾ , H. Hayami ¹¹⁾ , K. Sasaki ¹²⁾ , Y. Mori ¹²⁾ , T. Morikawa ¹³⁾ , T. Ohara ⁶⁾ , S. Hasegawa, S. Kobayashi ⁶⁾ | Asian Journal of Atmospheric Environment, Vol.4, No.3, 150-156 (2010) | 165頁 |

| 論文名 | 執筆者 | 掲載誌 | 抄録 |
|--|---|--|------|
| A facile one-step synthesis of TiO ₂ /graphene composites for photodegradation of methyl orange | H. Zhang ⁷⁾ , P. Xu ⁷⁾ , G. Du ⁷⁾ , Z. Chen ⁷⁾ , K. Oh, D. Pan ⁷⁾ , Z. Jiao ⁷⁾ | Nano Research, Vol.4, No.3, 274-283 (2011) | 165頁 |
| Perspective on synergic biological effects induced by ambient allergenic pollen and urban fine/ultrafine particulate matters in atmosphere [in Chinese] | S. Lu ⁷⁾ , Q. Wang ⁴⁾ , M.-H. Wu ⁷⁾ , M. Feng ⁷⁾ , S. Nakamura ⁴⁾ , X.-J. Wang, S. Yonemochi | Environmental Science[in China], Vol.31, No.9, 2260-2266 (2010) | 166頁 |
| Apportionment of TEQs from four major dioxin sources in Japan on the basis of five indicative congeners | K. Minomo, N. Ohtsuka, K. Nojiri, S. Hosono, K. Kawamura ⁴⁾ | Chemosphere, Vol.81, No.8, 985-991 (2010) | 166頁 |
| ISO 24293:2009に基づく水試料中ノニルフェノール異性体分析の試験所間試験 | 堀井勇一、谷保佐知 ¹⁵⁾ 、土屋悦輝 ¹⁶⁾ 、中川順一 ¹⁷⁾ 、高菅卓三 ¹⁸⁾ 、山下信義 ¹⁵⁾ 、宮崎章 ¹⁵⁾ | 分析化学、Vol.59、No.4、319-327 (2010) | 166頁 |
| Polychlorinated dibenzo-p-dioxins, dibenzofurans, biphenyls, and naphthalenes in plasma of workers deployed at the World Trade Center after the Collapse | Y. Horii, Q. Jiang ¹⁹⁾ , N. Hanari ¹⁵⁾ , P.K.S. Lam ²⁰⁾ , N. Yamashita ¹⁵⁾ , R. Jansing ²¹⁾ , K.M. Aldous ²¹⁾ , M.P. Mauer ²²⁾ , G.A. Eadon ²¹⁾ , K. Kannan ²¹⁾ | Environmental Science and Technology, Vol.44, No.13, 5188-5194 (2010) | 167頁 |
| Flux of perfluorinated chemicals through wet deposition in Japan, the United States, and several other countries | K.Y. Kwok ^{21,15)} , S. Taniyasu ¹⁵⁾ , L.W.Y. Yeung ^{21,15)} , M.B. Murphy ²¹⁾ , P.K.S. Lam ²¹⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²¹⁾ , G. Petrick ²³⁾ , R.K. Sinha ²⁴⁾ , N. Yamashita ¹⁵⁾ | Environmental Science and Technology, Vol.44, No.18, 7043-7049 (2010) | 167頁 |
| 指標異性体を用いた総TEQの推算方法とダイオキシン類測定における品質管理への利用 | 大塚宜寿、養毛康太郎、野尻喜好 | 環境化学、Vol.21、No.1、79-84 (2011) | 167頁 |
| Positive Matrix Factorization法による河川底質中ダイオキシン類の汚染源解析 | 竹田翔 ²⁵⁾ 、細野繁雄、益永茂樹 ²⁵⁾ | 環境化学、Vol.21、No.1、1-11 (2011) | 168頁 |
| Effect of coagulant on phosphorus uptake and release in EBPR process | I. Mishima, J. Nakajima ²⁶⁾ | Journal of Water and Environment Technology, Vol.8, No.4, 383-392 (2010) | 168頁 |
| ゼオライトろ床と植栽を組み合わせた里川再生技術の実河川への適用と維持管理 | 木持謙、金澤光、真下敏明 ²⁷⁾ 、正田武則 ²⁸⁾ 、常田聡 ²⁹⁾ 、関根正人 ²⁹⁾ 、榊原豊 ²⁹⁾ | 用水と廃水、Vol.53、No.2、142-149 (2011) | 168頁 |

(注) 執筆者の所属機関名は206ページに一覧にした。

5. 3. 2 総説・解説

| 題名 | 執筆者 | 掲載誌 | 抄録 |
|-----------------------------|--------------------------|--|------|
| 生態影響を重視した化学物質対策の推進 | 須藤隆一 | 化学物質と環境、No.100、74 (2010) | 169頁 |
| 集落排水対策をコベネフィット型で進めよう | 須藤隆一 | 季刊JARUS、No.100、5-6 (2010) | 169頁 |
| 水環境対策の歴史と今後の方向 | 須藤隆一、野口裕司 ³⁰⁾ | 季刊環境研究、No.159、45-54 (2010) | 169頁 |
| ドクターすどうの環境ってなんだろう (第52～63回) | 須藤隆一 | 用水と廃水、Vol.52、No.4(2010)～Vol.53、No.3 (2011) | 170頁 |

| 題 名 | 執 筆 者 | 掲 載 誌 | 抄録 |
|---|--|--|------|
| 生物処理の管理(359～362) 湖沼の浄化(73～76) | 須藤隆一 | 月刊「水」、Vol.52、No.4～No.7 (2010) | 170頁 |
| 低炭素社会を旨とした水環境保全 水環境保全の目標(1～6) 水環境保全の新たな推進策(1～2) | 須藤隆一 | 月刊「水」、Vol.52、No.8(2010)～ Vol.53、No.3 (2011) | 170頁 |
| 埼玉県環境科学国際センターの歩みと 今後の展望 | 高橋鉄夫 | 資源環境対策、Vol.46、No.11、62-66 (2010) | 171頁 |
| 埼玉県における地域独自の温暖化モニ タリングと温暖化影響の実態 | 嶋田知英 | 資源環境対策、Vol.47、No.2、86-91 (2011) | 171頁 |
| PM2.5—第2講 PM2.5の測定・分析と実 態— | 長谷川就一 | 大気環境学会誌、Vol. 45、No.4、A61- A68(2010) | 171頁 |
| 浮遊粒子状物質の炭素分析 | 長谷川就一 | ぶんせき、2010年第9号、452-457 (2010) | 172頁 |
| ムサシトミヨを絶滅させないために急がれ る下水道整備 | 金澤光 | Wildlife Forum, Vol.15, No.1, 7-8 (2010) | 172頁 |
| 埼玉県の温暖化の現状 | 米倉哲志 | さいたまの教育と文化、No.58、28-33 (2011) | 172頁 |
| 埼玉県の事業系ごみ削減対策 | 川寄幹生、堀口浩二 ³¹⁾ | 都市清掃、Vol.63、No.296、327-334 (2010) | 173頁 |
| 廃棄物処分場浸出水中の1,4-ジオキサ ンの検出状況と対策の提案 | 倉田泰人、藤原拓 ³²⁾ | 環境浄化技術、Vol.10、No.2、45-50 (2011) | 173頁 |
| PFOS/PFOAの国際標準分析法 ISO25101の確立 | 谷保佐知 ¹⁵⁾ 、羽成修康 ¹⁵⁾ 堀井勇一、山下信義 ¹⁵⁾ | 環境管理、Vol.47、No.3、204-211 (2011) | 173頁 |
| トイレの先にあるものは | 見島伊織 | 生物工学会誌、Vol.88、No.6、305(2010) | 174頁 |

(注) 執筆者の所属機関名は206ページに一覧にした。

5. 3. 3 学会発表

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|------------|--|---|--|------|
| H22. 4. 4 | 第121回日本森林学会大 会(筑波大学) | 埼玉県奥秩父における大気中オゾン濃度 の測定—ブナ林に対する影響に着目して — | 三輪誠 | 180頁 |
| H22. 4. 13 | 42nd Air Pollution Workshop (Asheville, USA) | Tentative critical levels of ozone for Japanese agricultural crops | T. Yonekura, S. Shinohara ³³⁾ , T. Izuta ³³⁾ , Y. Kohno ¹¹⁾ | 180頁 |
| H22. 4. 13 | 42nd Air Pollution Workshop (Asheville, USA) | Effect of ozone on the growth, yield and quality in rice cultivars under global warming condition | Y. Kohno ¹¹⁾ , H. Sawada ¹¹⁾ , H. Matsumura ¹¹⁾ , T. Yonekura, | 181頁 |
| H22. 5. 23 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 南海トラフ陸側斜面における表面熱流量 変動の原因としての海底地滑り | 木下正高 ³⁴⁾ 、濱元栄 起、U. Udrek ³⁵⁾ | 199頁 |
| H22. 5. 24 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 地質地盤情報データベースを利用した環 境科学情報の管理と応用 | 八戸昭一、石山高、 佐坂公規、濱元栄起、 白石英孝 | 200頁 |
| H22. 5. 25 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 三陸沖日本海溝海域の熱流量分布と太 平洋プレート上層部の温度構造異常 | 山野誠 ³⁶⁾ 、濱元栄起、 川田佳史 ³⁴⁾ 、L. Ray ³⁷⁾ | 200頁 |
| H22. 5. 26 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 埼玉県における低温地熱資源の地域特 性解析 | 佐坂公規、濱元栄起、 八戸昭一、白石英孝 | 176頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|------------|--|--|---|------|
| H22. 5. 26 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 海成層および海成段丘の分布に基づいた関東平野における中期更新世以降の海岸線の復元 | 松島紘子 ¹⁵⁾ 、須貝俊彦 ³⁶⁾ 、水野清秀 ¹⁵⁾ 、八戸昭一 | 200頁 |
| H22. 5. 26 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 東京都市圏における地下水・地下温度環境変化ー都市化による地下温度の上昇 | 宮越昭暢 ¹⁵⁾ 、林武司 ³⁸⁾ 、川島眞一 ³⁹⁾ 、川合将文 ³⁹⁾ 、八戸昭一 | 200頁 |
| H22. 5. 26 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | Geochemical forms and mobility of heavy metals in alluvial sediments of Arakawa lowlands, Japan | K.G.I.D. Kumari ⁴⁾ , C.T. Oguchi ⁴⁾ , S. Hachinohe, T. Ishiyama | 201頁 |
| H22. 5. 26 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 東アジア地域における地下熱環境の変遷ー埼玉県とバンコク地域における研究ー | 濱元栄起、山野誠 ³⁶⁾ 、八戸昭一、後藤秀作 ¹⁵⁾ 、佐坂公規、白石英孝、宮越昭暢 ¹⁵⁾ 、谷口真人 ⁴⁰⁾ | 201頁 |
| H22. 5. 27 | 日本地球惑星科学連合 2010年大会(千葉市) | 荒川低地中・上流域および妻沼低地における沖積層とその基底地形 | 石原武志 ³⁶⁾ 、須貝俊彦 ³⁶⁾ 、八戸昭一 | 201頁 |
| H22. 5. 31 | 34th ISCC & 7th GCxGC symposium (Riva del Garda, Italy) | Analysis of Cl-/Br-PAHs and other organohalogen compounds in environmental samples by GCxGC-high resolution TOF-MS | T. Ieda ⁴¹⁾ , N. Ochiai ⁴¹⁾ , T. Miyawaki ⁴²⁾ , Y. Horii, S. Hosono, T. Ohura ⁴³⁾ | 188頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 新津川における多環芳香族類の発生源 | 田村崇晃 ⁴⁴⁾ 、田村優喜 ⁴⁴⁾ 、猪狩友梨 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ | 183頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 堆肥中のCr(VI)の溶出量の測定法の検討 | 長沢俊輔 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ | 183頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 埼玉県内の河川水におけるPFOS、PFOA及びそれらの前駆物質濃度 | 茂木守、細野繁雄、野尻喜好 | 188頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | ダイオキシン類汚染源解析における指標異性体法とnon-negative matrix factorization法との比較 | 大塚宜寿、蓑毛康太郎、野尻喜好、細野繁雄 | 189頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | カオリン粘土中ダイオキシン類の分布と天然生成プロセスに関する研究 | 堀井勇一、大塚宜寿、蓑毛康太郎、細野繁雄、山下信義 ¹⁵⁾ | 189頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 焼却排ガス中塩素化・臭素化多環芳香族炭化水素の分布 | 堀井勇一、大塚宜寿、蓑毛康太郎、野尻喜好、大浦健 ⁴³⁾ | 189頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | GCxGC-高分解能TOF-MSによる環境試料中の塩素化・臭素化PAHs及びその他有機ハロゲン化合物の網羅的分析 | 家田曜世 ⁴¹⁾ 、落合伸夫 ⁴¹⁾ 、宮脇俊文 ⁴²⁾ 、堀井勇一、細野繁雄、大浦健 ⁴³⁾ | 189頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 紫外線吸収剤の底生生物セスジユスリカに対する毒性影響評価 | 田村生弥 ⁴⁵⁾ 、西田昌代 ⁴⁵⁾ 、平田佳代子 ⁴⁵⁾ 、木村久美子 ⁴⁶⁾ 、亀田豊、鏑迫典久 ⁶⁾ 、山本裕史 ⁴⁵⁾ | 193頁 |
| H22. 6. 21 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 埼玉県内の水生生物中の紫外線吸収剤の蓄積特性に関する研究 | 亀田豊、木村久美子 ⁴⁶⁾ 、高橋真司 ⁴⁷⁾ | 193頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|----------------|--|---|--|------|
| H22. 6. 22 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 花卉に含まれる残留農薬の分析前処理方法の検討 | 塩谷奈美 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将 小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ | 183頁 |
| H22. 6. 22 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | パーミアントラップ抽出による埼玉県内の河川水中フルオロテロマーアルコール類の調査 | 野尻喜好、茂木守、 細野繁雄 | 190頁 |
| H22. 6. 22 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 綾瀬川河川水中のダイオキシン類濃度の季節変化－指標異性体から推算した汚染源とそれらのTEQ寄与割合－ | 蓑毛康太郎、大塚宜 寿、細野繁雄、野尻喜 好、河村清史 ⁴⁾ | 190頁 |
| H22. 6. 22 | 2010 Western Pacific Geophysics Meeting (Taipei, Taiwan) | Subsurface geothermal regime in the central part of Kanto Plain with reference to geothermal heat utilization | O. Matsubayashi ¹⁵⁾ , H. Hamamoto | 201頁 |
| H22. 6. 23 | 第19回環境化学討論会 (中部大学) | 強磁性体担持多孔性炭素材料による揮発性有機塩素化合物の分解挙動 | 大野正貴 ⁴⁴⁾ 、大倉遼一 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、浅田隆志 ⁴⁸⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ | 184頁 |
| H22. 6. 25 | Water and Environment Technology Conference 2010 (Yokohama, Japan) | Current situation of PFC pollution in the basin of Tokyo Bay, Japan | Y. Zushi ²⁵⁾ , F. Ye ²⁵⁾ , M. Motegi, K. Nojiri, S. Hosono, T. Suzuki ⁴⁹⁾ , Y. Kosugi ⁴⁹⁾ , K. Yaguchi ⁴⁹⁾ , S. Masunaga ²⁵⁾ | 190頁 |
| H22. 6. 25 | Water and Environment Technology Conference 2010 (Yokohama, Japan) | Effect of coagulant on phosphorus uptake and release in EBPR process | I. Mishima, J. Nakajima ²⁶⁾ | 193頁 |
| H22. 6. 26 | Water and Environment Technology Conference 2010 (Yokohama, Japan) | Allelopathic Potential against <i>Microcystis aeruginosa</i> at <i>Potamogeton pusillus</i> Community | F. Takeda ⁴⁷⁾ , K. Nakano ⁴⁷⁾ , O. Nishimura ⁴⁷⁾ , Y. Shimada ⁵⁰⁾ , S. Fukuro ⁵⁰⁾ , H. Tanaka, N. Hayashi ⁵¹⁾ , Y. Inamori ⁴⁸⁾ | 194頁 |
| H22. 7. 27 | 第47回下水道研究発表会 (名古屋市) | MBRにおける担体投入によるせん断応力の変動と有効せん断応力の評価 | H.M. Zaw ⁵²⁾ 、李泰日 ⁵²⁾ 、長岡裕 ⁵²⁾ 、見島伊織 | 194頁 |
| H22. 8. 5 | 日本エアロゾル学会第27 回エアロゾル科学・技術研 究討論会(名古屋大学) | 春季の沖縄辺戸岬におけるPM10およびPM2.5の炭素成分の特徴 | 長谷川就一、高見昭 憲 ⁶⁾ 、大原利真 ⁶⁾ | 177頁 |
| H22. 8. 5 | 第5回淡水魚保全シンポ ジウム三重県明和町大会 (三重県明和町) | 絶滅危惧IA類ムサシトミヨの再導入の経過報告 | 金澤光 | 181頁 |
| H22. 9. 2-3 | 第16回バイオアッセイ・日 本環境毒性学会研究会合 同研究発表会(つくば市) | 単細胞緑藻クラミドモナスの鞭毛再生による道路流出水の人工湿地処理過程の毒性評価 | 田中仁志、亀田豊、 武田文彦 ⁴⁷⁾ 、中野和 典 ⁴⁷⁾ | 194頁 |
| H22. 9. 8 | 日本機械学会2010年度年 次大会(名古屋工業大学) | スペックル干渉法による圧力の面計測 | 平原裕行 ⁴⁾ 、戸嶋裕也 ⁴⁾ 、門野博史、 V.D. Madjarova ⁴⁾ | — |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|------------|--|--|---|------|
| H22. 9. 8 | 日本生物環境工学会2010年大会(京都大学) | Investigation of short term growth behavior of rice plants (<i>Oryza sativa</i> L.) in vegetative growth period under the ozone stress using statistical interferometry | B.L.S. Thilakarathne ⁴⁾ , H. Kadono, V.D. Madjarova ⁴⁾ , H. Noguchi ⁴⁾ , T. Yonekura | — |
| H22. 9. 8 | 日本生物環境工学会2010年大会(京都大学) | Monitoring of activities of plants under environmental stress using optical coherence tomography | V.D. Madjarova ⁴⁾ , H. Kadono, H. Noguchi ⁴⁾ | — |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 都市郊外での通年観測から評価したサブミクロン粒子PM1の特徴 | 米持真一、梅沢夏実 | 177頁 |
| H22. 9. 8 | 大気環境学会都市大気エアロゾル分科会・都市大気環境モデリング分科会合同分科会(大阪大学) | 微小粒子中炭素成分の測定法に関する課題と都市大気における実態 | 長谷川就一 | 177頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 埼玉県における湿性沈着調査 | 松本利恵 | 177頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 幹線道路近傍の大気環境中におけるエアロゾルの曝露調査2009-2010 | 藤谷雄二 ⁶⁾ 、田村憲治 ⁶⁾ 、伏見暁洋 ⁶⁾ 、長谷川就一、高橋克行 ¹⁴⁾ 、田邊潔 ⁶⁾ 、小林伸治 ⁶⁾ 、平野靖史郎 ⁶⁾ | 178頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 沿道と一般環境における大気中ナノ粒子の粒径分布の長期観測(2004-2009) | 高橋克行 ¹⁴⁾ 、藤谷雄二 ⁶⁾ 、伏見暁洋 ⁶⁾ 、長谷川就一、田邊潔 ⁶⁾ 、小林伸治 ⁶⁾ | 178頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 分子間相互作用から見たスギ花粉アレルゲン物質の変性可能性 | 王青躍 ⁴⁾ 、森田淳 ⁴⁾ 、龔秀民 ⁴⁾ 、仲村慎一 ⁴⁾ 、呉迪 ⁴⁾ 、孫楊 ⁴⁾ 、三輪誠、中島大介 ⁶⁾ 、鈴木美穂 ⁴⁾ | 181頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 埼玉県における住民参加を主体としたオゾンによるアサガオ被害調査ーオゾン濃度と葉被害度との関係(2)ー | 三輪誠 | 181頁 |
| H22. 9. 8 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | オゾン暴露が樹木苗のテルペン類放出に及ぼす影響 | 大野卓夫 ⁴³⁾ 、谷晃 ⁴³⁾ 、三輪誠、米倉哲志、伊藤創平 ⁴³⁾ 、酒井坦 ⁴³⁾ | 182頁 |
| H23. 9. 8 | 第13回日本水環境学会シンポジウム(京都大学) | 生態工学技法としての有用沈水植物を活用した高度化技法 | 袋昭太 ⁵⁰⁾ 、田中仁志、中野和典 ⁴⁷⁾ 、林紀男 ⁵¹⁾ 、稲森隆平 ⁴⁸⁾ 、稲森悠平 ⁴⁸⁾ | 194頁 |
| H22. 9. 9 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 全国酸性雨調査(70)ー乾性沈着(沈着量の推計)ー | 松本利恵、野口泉 ⁵³⁾ 、藍川昌秀 ⁵⁴⁾ 、林健太郎 ⁵⁵⁾ 、八田哲典 ⁵⁶⁾ 、松田和秀 ⁵⁷⁾ | 178頁 |
| H22. 9. 9 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 中国武漢市における家屋内外のPM濃度と炭素成分 | 田村憲治 ⁶⁾ 、島正之 ⁵⁸⁾ 、余田佳子 ⁵⁸⁾ 、馬露 ⁵⁹⁾ 、長谷川就一 | 178頁 |
| H22. 9. 10 | 第51回大気環境学会年会(大阪大学) | 標準法によるPM2.5通年測定と週単位測定と比較 | 米持真一、梅沢夏実、長谷川就一、小畑徹 ⁶⁰⁾ 、増山新平 ⁶⁰⁾ 、須藤勉 ⁶¹⁾ | 179頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|-------------|--|---|--|------|
| H22. 9. 10 | 第51回大気環境学会年会 (大阪大学) | 詳細化学組成に基づくディーゼル排出ナノ粒子に対するオイル寄与率の定量的推定 | 伏見暁洋 ⁶⁾ 、齊藤勝美 ⁶²⁾ 、藤谷雄二 ⁶⁾ 、長谷川就一、高橋克行 ¹⁴⁾ 、田邊潔 ⁶⁾ 、小林伸治 ⁶⁾ | 179頁 |
| H22. 9. 10 | 第51回大気環境学会年会 (大阪大学) | 粒子状炭素成分測定におけるアーティファクトの影響検討 | 長谷川就一 | 179頁 |
| H22. 9. 10 | 第51回大気環境学会年会 (大阪大学) | PAHs濃度から見た9年間の大気環境変化ー埼玉県北部のPM2.5調査結果からー | 梅沢夏実、米持真一 | 179頁 |
| H22. 9. 10 | 第51回大気環境学会年会 (大阪大学) | わが国における大気中亜硝酸ガスの挙動 | 野口泉 ⁵³⁾ 、山口高志 ⁵³⁾ 、友寄喜貴 ⁶³⁾ 、松本利恵、井上広史 ⁶⁴⁾ 、中谷泰治 ⁶⁵⁾ 、野中卓 ⁶⁶⁾ 、桑尾房子 ⁶⁷⁾ 、林健太郎 ⁵⁵⁾ 、松田和秀 ⁵⁷⁾ | 180頁 |
| H22. 9. 12 | 環境経済・政策学会2010年大会(名古屋大学) | コミュニティバス購入に関する自治体の選好分析およびコミュニティバスへの次世代自動車の普及率推計ー埼玉県内の自治体を対象とした事例研究ー | 増富祐司、脇坂純一 | 175頁 |
| H22. 9. 13 | 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (San Antonio, USA) | A nationwide survey of dioxins in kaolin clays from Japan | Y. Horii, N. Ohtsuka, K. Minomo, K. Nojiri, S. Hosono, N. Yamashita ¹⁵⁾ | 190頁 |
| H22. 9. 16 | 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (San Antonio, USA) | Method development of volatile perfluorinated compounds in water using purge and trap extraction-GC/MS | M. Motegi, Y. Horii, S. Hosono, K. Nojiri | 191頁 |
| H22. 9. 16 | 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (San Antonio, USA) | Survey of perfluorinated compound (PFC) pollution in the basin of Tokyo Bay using the simultaneous analysis method for 35 types of PFCs | Y. Zushi ²⁵⁾ , F. Ye ²⁵⁾ , M. Motegi, K. Nojiri, S. Hosono, T. Suzuki ⁴⁹⁾ , Y. Kosugi ⁴⁹⁾ , K. Yaguchi ⁴⁹⁾ , S. Masunaga ²⁵⁾ | 191頁 |
| H22. 9. 16 | 30th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (San Antonio, USA) | Perfluorinated chemicals in glacial ice core samples from the European Arctic | K.Y. Kwok ^{15,20)} , N. Yamashita ¹⁵⁾ , S. Taniyasu ¹⁵⁾ , Y. Horii, G. Petrick ²³⁾ , R. Kallenborn ⁶⁸⁾ , K. Kannan ²¹⁾ , P.K.S. Lam ²⁰⁾ | 191頁 |
| H22. 9. 17 | 日本分析化学会第59年会 (仙台市) | GCxGC-負イオン化学イオン化-高分解能TOF-MSを用いた環境試料中有機ハロゲン化合物の分析 | 家田曜世 ⁴¹⁾ 、落合伸夫 ⁴¹⁾ 、宮脇俊文 ⁴²⁾ 、堀井勇一、大浦健 ⁴³⁾ | 191頁 |
| H22. 10. 21 | 第13回自然系調査研究機関連絡会議(名古屋市) | 埼玉県におけるアライグマの生息状況 | 嶋田知英 | 175頁 |
| H22. 10. 21 | 第13回自然系調査研究機関連絡会議(名古屋市) | 絶滅危惧魚類ムサシトミヨの保全に関する研究 | 三輪誠、金澤光 | 182頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|-------------|---|--|--|------|
| H22. 10. 21 | 日本応用地質学会平成22年度研究発表会(松江市) | 関東平野中央部における地下温度環境の変化 | 宮越昭暢 ¹⁵⁾ 、林武司 ³⁸⁾ 八戸昭一、濱元栄起 | 202頁 |
| H22. 10. 27 | 日本気象学会2010年度秋季大会(京都市) | 台風による水稲の被害面積推計モデルの開発 | 増富祐司、飯泉仁之直 ⁵⁵⁾ 、高橋潔 ⁶⁾ 、横沢正幸 ⁵⁵⁾ | 175頁 |
| H22. 10. 27 | 日本地震学会2010年度秋季大会(広島市) | 紀伊半島沖南海トラフ底の熱流量分布と沈み込むプレートの温度構造 | 山野誠 ³⁶⁾ 、濱元栄起、 後藤秀作 ¹⁵⁾ | 202頁 |
| H22. 10. 28 | Sixth Asian-Pacific landfill Symposium (Seoul, Korea) | Approaches to promote appropriate disposal of non-friable asbestos-containing construction materials | M. Kawasaki, Y. Isobe, K. Endo ⁶⁾ , M. Yamada ⁶⁾ | 184頁 |
| H22. 10. 28 | Sixth Asian-Pacific landfill Symposium (Seoul, Korea) | Electrical imaging of the illegal dumping site using electrical resistivity tomography and electromagnetic sounding | Y. Isobe, M. Kawasaki, K. Suzuki, K. Sasaka, Y. Watanabe | 184頁 |
| H22. 10. 29 | 第22回環境システム計測制御学会研究発表会(立命館大学) | 湖沼への沈水植物再生における派生バイオマスのリサイクル評価 | 見島伊織、柿本貴志、池田和弘、田中仁志、袋昭太 ⁵⁰⁾ 、久保田洋 ⁵⁰⁾ 、石川光祥 ⁵⁰⁾ 、稲森悠平 ⁴⁸⁾ | 195頁 |
| H22. 11. 4 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 都市ごみ焼却残渣からの多環芳香族炭化水素抽出溶媒の検討 | 佐藤昌宏 ⁷⁰⁾ 、東條安匡 ⁷⁰⁾ 、倉田泰人、松尾孝之 ⁷⁰⁾ 、松藤敏彦 ⁷⁰⁾ | 184頁 |
| H22. 11. 4 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 管理型最終処分場の廃止基準に関する考察(7) | 長森正尚、山田正人 ⁶⁾ 、石垣智基 ⁶⁾ 、小野雄策 ⁷¹⁾ | 185頁 |
| H22. 11. 5 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 一般廃棄物最終処分場浸出水中の1,4-ジオキサンに関する考察 | 倉田泰人 | 185頁 |
| H22. 11. 5 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 水平型浸透性反応層(HPRB)による有害物質捕捉技術の長期性能評価 | 渡辺洋一、川崙幹生、磯部友護、鈴木和将、小野雄策 ⁷¹⁾ 、山田正人 ⁶⁾ 、遠藤和人 ⁶⁾ | 185頁 |
| H22. 11. 6 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 廃棄物焼却施設の運転管理におけるライフサイクルアセスメント | 鈴木和将、大畠誠 ⁷²⁾ 、川本克也 ⁶⁾ | 185頁 |
| H22. 11. 6 | 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会(金沢市) | 焼却施設における低炭素・循環型社会適合性評価指標の開発 | 川本克也 ⁶⁾ 、大畠誠 ⁷²⁾ 、鈴木和将 | 186頁 |
| H22. 11. 8 | Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 31st Annual Meeting (Portland, USA) | Occurrence and ecological assessment of antifungal agents in a small urban stream, with no sewage service coverage | I. Tamura ⁴⁵⁾ , J. Kato ⁴⁵⁾ , K. Ikebata ⁴⁵⁾ , K. Kagota ⁴⁵⁾ , Y. Yasuda ⁴⁵⁾ , Y. Kameda, K. Kimura ⁴⁶⁾ , N. Tatarazako ⁶⁾ , H. Yamamoto ⁴⁵⁾ | 195頁 |
| H22. 11. 8 | Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 31st Annual Meeting (Portland, USA) | Short-term chronic toxicity tests applied to ambient water sampled in urban streams of Tokushima, Japan: potential contribution of PPCPs | H. Yamamoto ⁴⁵⁾ , Y. Yasuda ⁴⁵⁾ , S. Yoneda ⁴⁵⁾ , K. Ikebata ⁴⁵⁾ , I. Tamura ⁴⁵⁾ , N. Nakada ⁷³⁾ , K. Kimura ⁴⁶⁾ , Y. Kameda, N. Tatarazako ⁶⁾ | 195頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|-------------|--|---|---|------|
| H22. 11. 10 | Optics & Photonics Japan 2010(中央大学) | Swept Source OCTを用いたラット嗅球構造の <i>in vivo</i> 断層計測 | 渡邊秀行 ^{4,74)} 、 U.M. Rajagopalan ⁷⁴⁾ 、 中道友 ⁷⁴⁾ 、 V.D. Madjarova ⁴⁾ 、 門野博史、谷藤学 ⁷⁴⁾ | — |
| H22. 11. 11 | 日本地下水学会2010年秋 季講演会(和歌山市) | 埼玉県下の荒川低地における地下水利用と地盤沈下の特徴 | 愛知正温 ³⁶⁾ 、滝沢智 ³⁶⁾ 八戸昭一 | 202頁 |
| H22. 11. 12 | 日本法科学技術学会第16 回学術集会(東京都港区) | 製紙工場で発生した硫化水素中毒に関 わる再現実験について | 大塚和則 ⁷⁵⁾ 、野澤靖 典 ⁷⁵⁾ 、倉田泰人 | 186頁 |
| H22. 11. 13 | 第47回環境工学研究フォー ラム(高知大学) | 家畜糞の堆肥利用における制約としての 副資材の影響について | 長谷隆仁、渡辺洋一、 山田正人 ⁶⁾ 、藤原拓 ³²⁾ 河村清史 ⁴⁾ | 186頁 |
| H22. 11. 13 | 第47回環境工学研究フォー ラム(高知大学) | 統計資料と地理情報を用いた高知県にお ける農業系窒素動態の推計 | 松岡真如 ³²⁾ 、増田貴 則 ⁷⁶⁾ 、長谷隆仁、山田 正人 ⁶⁾ 、前田守弘 ⁷⁷⁾ 、 藤原拓 ³²⁾ | 186頁 |
| H22. 11. 13 | 第47回環境工学研究フォー ラム(高知大学) | Fate of urinary components and pharmaceuticals in storage process of urine | T. Kakimoto, S. Hotta ⁷⁰⁾ , H. Shibuya ⁷⁸⁾ , H. Suzuki ⁷⁸⁾ , N. Funamizu ⁷⁰⁾ | 195頁 |
| H22. 11. 13 | 日本地形学連合2010年度 秋季研究発表会 (立正大学) | 妻沼低地・荒川低地における埋没地形面 の形成過程と変形構造 | 石原武志 ³⁶⁾ 、須貝俊 彦 ³⁶⁾ 、八戸昭一 | 202頁 |
| H22. 11. 13 | 日本地形学連合2010年度 秋季研究発表会 (立正大学) | 埼玉県平野部の自然地層中に含まれる 重金属類とその特性について | 八戸昭一、石山高、 濱元栄起、北口竜太 ⁴⁾ 小口千明 ⁴⁾ | 203頁 |
| H22. 11. 18 | 日本水処理生物学会第47 回大会(筑波大学) | 沈水植物管理のための実験水槽を用いた 刈り取り方法の検討 | 田中仁志、見島伊織、 池田和弘、柿本貴志、 須藤隆一、袋昭太 ⁵⁰⁾ 、 中野和典 ⁴⁷⁾ 、林紀男 ⁵¹⁾ 稲森悠平 ⁴⁸⁾ | 196頁 |
| H22. 11. 19 | 日本水処理生物学会第47 回大会(筑波大学) | 前置型の処理装置の設置による負荷の低 減と小規模浄化槽における処理の可能性 | 浅川進 ³⁰⁾ 、野口裕司 ³⁰⁾ 鈴木章 ³⁰⁾ 、山岸知彦 ³⁰⁾ 須藤隆一 | 175頁 |
| H22. 11. 21 | 日本地質学会関東支部— 日本第四紀学会ジョイント シンポジウム「関東盆地の 地下地質構造と形成史」 (日本大学) | ボーリング試資料解析に基づく関東平野 中央部、綾瀬川断層周辺の地質構造モ デル | 水野清秀 ¹⁵⁾ 、松島紘 子 ¹⁵⁾ 、木村克己 ¹⁵⁾ 、納 谷友規 ¹⁵⁾ 、八戸昭一、 本郷美佐緒 ⁷⁹⁾ | 203頁 |
| H22. 11. 25 | 日本地熱学会平成22年学 術講演会(つくば市) | 地中熱利用システムのための地下環境情 報の整備—埼玉県をモデルとして— | 濱元栄起、八戸昭一、 白石英孝、石山高、 佐坂公規、宮越昭暢 ¹⁵⁾ 山野誠 ³⁶⁾ | 203頁 |
| H22. 12. 2 | 日本サンゴ礁学会第13回 学会(つくば市) | 沖縄の海水浴場周辺海域における紫外線 吸収剤の検出 | 田代豊 ⁸⁰⁾ 、亀田豊、中 村徹 ⁸⁰⁾ 、喜舎場勇基 ⁸⁰⁾ | 196頁 |
| H22. 12. 14 | 2010 America Geophysical Union Fall Meeting (San Francisco, USA) | Area estimation of crop damage due to tropical cyclones using crop fragility curves for paddy rice in Japan | Y. Masutomi, T. Iizumi ⁵⁵⁾ , K. Takahashi ⁶⁾ , M. Yokozawa ⁵⁵⁾ | 176頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|-------------|--|---|--|------|
| H22. 12. 14 | 2010 America Geophysical Union Fall Meeting (San Francisco, USA) | Tentative critical levels of tropospheric ozone for agricultural crops in Japan | T. Yonekura | 182頁 |
| H22. 12. 14 | 2010 America Geophysical Union Fall Meeting (San Francisco, USA) | Subsurface environment database for application of ground heat exchanger system | H. Hamamoto, S. Hachinohe, H. Shiraishi, T. Ishiyama, K. Sasaka, A. Miyakoshi ¹⁵⁾ , S. Goto ¹⁵⁾ | 203頁 |
| H22. 12. 16 | 2010 America Geophysical Union Fall Meeting (San Francisco, USA) | Estimation of velocity structure around a natural gas reservoir at Yufutsu, Japan, by microtremor survey | H. Shiraishi, H. Asanuma ⁴⁷⁾ , K. Tezuka ⁸¹⁾ | 204頁 |
| H22. 12. 19 | 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA) | Study on natural formation of dioxins in kaolin clays: A new approach to trace the origin of POPs | Y. Horii, N. Ohtsuka, K. Minomo, S. Hosono, K. Nojiri, K. Kannan ²¹⁾ , G. Petrick ²³⁾ , P.K.S. Lam ²⁰⁾ , N. Yamashita ¹⁵⁾ | 192頁 |
| H22. 12. 19 | 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA) | Trace analysis of volatile and non-volatile perfluorinated chemicals in water samples using HRGC-MS/MS and HPLC-MS/MS | S. Taniyasu ¹⁵⁾ , K.Y. Kwok ^{15,20)} , N. Yamashita ¹⁵⁾ , Y. Horii, K. Nojiri, P.K.S. Lam ²⁰⁾ , K. Kannan ²¹⁾ | 192頁 |
| H22. 12. 19 | 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA) | Perfluorinated chemicals (PFCs) in glacial ice core samples from the European Arctic | K.Y. Kwok ^{15,20)} , N. Yamashita ¹⁵⁾ , S. Taniyasu ¹⁵⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²¹⁾ , G. Petrick ²³⁾ , R. Kallenborn ⁶⁸⁾ , P.K.S. Lam ²⁰⁾ | 192頁 |
| H22. 12. 20 | The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA) | "Islands project" for understanding the global transportation potential of PFOS and related chemicals in oceans | N. Yamashita ¹⁵⁾ , K.Y. Kwok ^{15,20)} , S. Taniyasu ¹⁵⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²¹⁾ , G. Petrick ²³⁾ , T. Gamo ³⁶⁾ | 192頁 |
| H23. 1. 26 | 第32回全国都市清掃研究 ・事例発表会(岡山市) | 一般廃棄物不燃ごみ処理残さ性状及び不燃ごみ処理方法についての考察 | 川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一、 上野貴幸 ⁸²⁾ 、保科弘 ⁸²⁾ | 187頁 |
| H23. 1. 26 | 第32回全国都市清掃研究 ・事例発表会(岡山市) | 廃プラスチック混入ごみの焼却と排ガス特性への影響評価 | 川本克也 ⁶⁾ 、大島誠 ⁷²⁾ 鈴木和将 | 187頁 |
| H23. 1. 27 | 第32回全国都市清掃研究 ・事例発表会(岡山市) | 埋立廃棄物の物理的・化学的な物性を影響因子とした比抵抗探査の評価 | 磯部友護、川寄幹生、 鈴木和将、渡辺洋一 | 187頁 |
| H23. 3. 8 | ブルーアース'11 (東京海洋大学) | 日本海溝に沈み込む太平洋プレート上層部の温度構造異常と間隙流体の研究 | 山野誠 ³⁶⁾ 、馬場聖至 ³⁶⁾ 川村喜一郎 ⁸³⁾ 、後藤 忠徳 ⁷³⁾ 、笠谷貴史 ³⁴⁾ 、 川田佳史 ³⁴⁾ 、市原寛 ³⁴⁾ 濱元栄起、後藤秀作 ¹⁵⁾ KR08-10・KR09-16・ KR10-12乗船研究者 | 204頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|------------|------------------------------------|---|--|------|
| H23. 3. 11 | 大気環境学会環境大気モニタリング分科会第28回研究会(東京都中央区) | 常時監視としての微小粒子状物質(PM2.5)モニタリングの現状と今後の課題 | 米持真一 | 180頁 |
| H23. 3. 11 | 第38回土木学会関東支部技術研究発表会(法政大学) | 下水処理場における反応槽内の窒素成分の挙動とN ₂ O発生 | 見島伊織、伊藤耕輔 ⁸⁴⁾ 吉田征史 ⁸⁴⁾ | 196頁 |
| H23. 3. 11 | 第58回日本生態学会大会(札幌市) | 沈水植物イモ群落水が微細藻類の増殖に及ぼす影響 | 武田文彦 ⁴⁷⁾ 、中野和典 ⁴⁷⁾ 、野村宗弘 ⁴⁷⁾ 、西村修 ⁴⁷⁾ 、島多義彦 ⁸⁵⁾ 、袋昭太 ⁵⁰⁾ 、田中仁志、林紀男 ⁵¹⁾ 、稲森悠平 ⁴⁸⁾ | 196頁 |
| H23. 3. 16 | 日本農業気象学会2011年全国大会(鹿児島大学) | フラジリティーカーブを用いた台風被害面積推計手法の開発 | 増富祐司、飯泉仁之直 ⁵⁵⁾ 、高橋潔 ⁶⁾ 、横沢正幸 ⁵⁵⁾ | 176頁 |
| H23. 3. 17 | 日本農業気象学会2011年全国大会(鹿児島大学) | GAEZモデルを用いた温暖化による世界のトウモロコシ生産性の影響評価 | 申龍熙 ⁶⁾ 、高橋潔 ⁶⁾ 、脇岡靖明 ⁶⁾ 、花崎直太 ⁶⁾ 、増富祐司 | 176頁 |
| H23. 3. 17 | 日本農業気象学会2011年全国大会(鹿児島大学) | 水稻の収量に対するオゾンのクリティカルレベルの検討 | 米倉哲志 | 182頁 |
| H23. 3. 17 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 埼玉県内の地下水ヒ素汚染と周辺における地質試料の特性 | 石山高、八戸昭一、濱元栄起、白石英孝、李弘吉 ⁴⁾ 、河村清史 ⁴⁾ | 204頁 |
| H23. 3. 18 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | Study on heavy metal tolerance and accumulation potential of biofuel plants and accumulator plants for phytoremediation | K. Oh, Q. Lin ⁸⁶⁾ , Y. Xie ⁸⁷⁾ , H. kanazawa | 183頁 |
| H23. 3. 18 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 処理方式が硝化脱窒活性およびN ₂ O発生へ与える影響 | 小川雄也 ⁸⁴⁾ 、吉田征史 ⁸⁴⁾ 、見島伊織、藤田昌史 ⁸⁸⁾ | 197頁 |
| H23. 3. 18 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 硝化細菌の窒素酸化量に応じた一酸化二窒素生成速度の変動 | 鈴木準平 ⁸⁸⁾ 、内山慶子 ⁸⁸⁾ 、見島伊織、藤田昌史 ⁸⁸⁾ | 197頁 |
| H23. 3. 18 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 自然由来と疑われる泡が流下する河川の有機物特性 | 池田和弘、高橋基之、柿本貴志、見島伊織、木村弘明 ⁴⁾ | 197頁 |
| H23. 3. 18 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 生活排水によって汚染された河川水中の生活関連汚染化学物質の寄与の評価 | 山本裕史 ⁴⁵⁾ 、中田典秀 ⁷³⁾ 、亀田豊、木村久美子 ⁴⁶⁾ | 197頁 |
| H23. 3. 19 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 花卉に残留する農薬の分析前処理法及び室内放射性の検討 | 塩谷奈美 ⁴⁴⁾ 、高井亜紗子 ⁴⁴⁾ 、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将 | 187頁 |
| H23. 3. 19 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 沖縄の珊瑚礁生態系に対する紫外線吸収剤および紫外線安定剤の初期リスク評価 | 亀田豊、田代豊 ⁸⁰⁾ 、木村久美子 ⁴⁶⁾ | 198頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 新津川における多環芳香族炭化水素類等の起源推定 | 田村崇晃 ⁴⁴⁾ 、田村優喜 ⁴⁴⁾ 、猪狩友梨 ⁴⁴⁾ 、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将 | 188頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | コンクリートスラッジ及びその再資源化における重金属の定量 | 長沢俊輔 ⁴⁴⁾ 、小瀬知洋 ⁴⁴⁾ 、川田邦明 ⁴⁴⁾ 、鈴木和将 | 188頁 |

| 期 日 | 学会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 | 抄録 |
|------------|------------------------|--|--|------|
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 東京湾流域における河川懸濁物中PFCs濃度の空間分布実態 | 頭士泰之 ²⁵⁾ 、F. Ye ²⁵⁾ 、益永茂樹 ²⁵⁾ 、茂木守、野尻喜好、細野繁雄、鈴木俊也 ⁴⁹⁾ 、小杉有希 ⁴⁹⁾ 、矢口久美子 ⁴⁹⁾ | 193頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 環境水中の希土類元素分析に関する基礎研究 | 大木可奈子 ⁴⁶⁾ 、城裕樹 ⁴⁶⁾ 、渡部茂和 ⁴⁶⁾ 、亀田豊 | 198頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 化粧品由来PPCPsの河川水中濃度の把握 | 木村久美子 ⁴⁶⁾ 、亀田豊、山本裕史 ⁴⁵⁾ 、中田典秀 ⁷³⁾ | 198頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 流域の污水整備および受排水種の異なる河川における医薬品類の存在実態 | 中田典秀 ⁷³⁾ 、木村久美子 ⁴⁶⁾ 、亀田豊、山本裕史 ⁴⁵⁾ | 198頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 隔離水界を用いた植生浮島による水質浄化実験における長期水質調査結果 | 田中仁志、柿本貴志、池田和弘、見島伊織、須藤隆一、島多義彦 ⁸⁵⁾ 、武田文彦 ⁴⁷⁾ 、中野和典 ⁴⁷⁾ 、林紀男 ⁵¹⁾ 、稲森悠平 ⁴⁸⁾ | 199頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | 流入負荷を伴う池沼における植生浮島の浄化機能に関する現場試験 | 島多義彦 ⁸⁵⁾ 、仲沢武志 ⁵⁰⁾ 、田中仁志、武田文彦 ⁴⁷⁾ 、中野和典 ⁴⁷⁾ 、西村修 ⁴⁷⁾ | 199頁 |
| H23. 3. 20 | 第45回日本水環境学会年会(紙面発表) | ゼオライト成形体と水生植物を活用した里川再生技術の実河川における検討 | 木持謙、金澤光、真下敏明 ²⁷⁾ 、正田武則 ²⁸⁾ 、常田聡 ²⁹⁾ 、関根正人 ²⁹⁾ 、榊原豊 ²⁹⁾ | 199頁 |
| H23. 3. 24 | 第58回応用物理学関係連合講演会(紙面発表) | 位相シフトデジタルホログラフィー法におけるスペックル統計に基づく位相シフト誤差補償法 | 片岡基史 ⁴⁾ 、門野博史 | — |
| H23. 3. 25 | 第58回応用物理学関係連合講演会(紙面発表) | 統計干渉法を用いた環境影響下の極短時間植物生長応答計測 | 志村和樹 ⁴⁾ 、小林幸一 ^{4,5)} 、門野博史 | — |
| H23. 3. 27 | 第58回応用物理学関係連合講演会(紙面発表) | 統計干渉法を用いた焼却排ガス影響下の極短時間植物生長応答 | 野口秀昭 ⁴⁾ 、門野博史、野尻喜好 | — |

(注) 執筆者の所属機関名は206ページに一覧にした。

5.3.4 その他の研究発表

| 期 日 | 発表会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 |
|------------|---------------------------------------|--------------------|----------------|
| H22. 7. 2 | 平成22年度全国環境研協議会関東甲信静支部騒音・振動専門部会(さいたま市) | 周波数分析で何がわかるか | 白石英孝 |
| H22. 8. 22 | 生物多様性講演会(埼玉工業大学) | 埼玉県の魚を通じた生物多様性について | 金澤光 |

| 期 日 | 発表会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 |
|-------------|---|--|---|
| H22. 9. 22 | First Ameli-Eaur International symposium on sustainable water and sanitation system & 7 th International symposium on sustainable water and sanitation system (Paris, France) | Characteristics of components in fresh human urine and their fate during storage process | T. Kakimoto, H. Shibuya ⁷⁸⁾ , H. Suzuki ⁷⁸⁾ , N. Funamizu ⁷⁰⁾ |
| H22. 9. 24 | 全国環境研協議会関東甲 信静支部大気専門部会 (静岡市) | 標準測定法に基づく通年測定から明らかとなっ たPM2.5の特徴 | 米持真一 |
| H22. 10. 11 | Second Regional Consultation Meeting on Economics of Climate Change and Low Carbon Growth Strategies in Northeast Asia (Ulan Bator, Mongolia) | Impact assessment of climate change on rice production in Asia in comprehensive consideration of uncertainties in future climate projections | Y. Masutomi, K. Takahashi ⁶⁾ , H. Harasawa ⁶⁾ , Y. Matsuoka ⁷³⁾ |
| H22. 10. 22 | 第28回埼環協研究発表会 (さいたま市) | 埼玉県内の河川水におけるPFOS、PFOA及び それらの前駆物質の濃度 | 茂木守 |
| H22. 10. 29 | 平成22年度全国環境研協 議会関東甲信静支部水質 専門部会(東京都江東区) | 自然的原因による土壌汚染に関する基礎的知 見 | 石山高 |
| H22. 11. 1 | 「有機フッ素化合物の環 境汚染実態と排出源につ いて」研究推進会議 (東京都千代田区) | 埼玉県内の河川水におけるPFOS、PFOA及び それらの前駆物質濃度 | 茂木守 |
| H22. 11. 4 | Japan's 2nd National Workshop on the Economics of Climate Change and Low Carbon Growth Strategies in Northeast Asia (Tokyo, Japan) | Impact Assessment of Climate Change on Rice Production in Asia in Comprehensive Consideration of Uncertainties in Future Climate projections | Y. Masutomi, K. Takahashi ⁶⁾ , H. Harasawa ⁶⁾ , Y. Matsuoka ⁷³⁾ |
| H22. 11. 6 | 第8回新河岸川流域川づ くり懇談会(朝霞市) | アユのすむ川づくり | 金澤光 |
| H22. 11. 16 | 第37回環境保全・公害防 止研究発表会 (さいたま市) | 埼玉県における揮発性有機化合物の昼夜別濃 度の比較 | 竹内庸夫、松本利恵 |
| H22. 11. 16 | 第37回環境保全・公害防 止研究発表会 (さいたま市) | コンビニエンスストアのエネルギー消費量実態把 握と、深夜化するライフスタイル見直しによるCO ₂ 排出削減効果の試算 | 嶋田知英、竹内庸夫、 米倉哲志、増富祐司 |
| H22. 11. 16 | 第37回環境保全・公害防 止研究発表会 (さいたま市) | 一般廃棄物最終処分場浸出水中の1,4-ジオキ サンに関する考察 | 倉田泰人、長森正尚、 藤原拓 ³²⁾ |
| H22. 12. 16 | 中国環境科学研究院大気 環境研究所学術報告講座 (13)(中国北京市) | Characterization of PM _{2.5} in suburban of Tokyo, Japan, and influence of some regulations for emission sources on chemical components | 米持真一 |
| H22. 12. 17 | 湧水保全フォーラム全国 大会inひがしくるめ (東久留米市) | 湧水にすむムサシトミヨの保全の現状と課題に ついて | 金澤光 |

| 期 日 | 発表会の名称 | 発 表 テ ー マ | 発表者及び 共同研究者 |
|------------|---|---|--|
| H23. 1. 21 | 第56回日本水環境学会セミナー「1, 4-ジオキサンの環境基準項目への追加と処理技術開発の動向」(東京都千代田区) | 廃棄物処分場浸出水中の1,4-ジオキサンの検出状況とその起源 | 倉田泰人 |
| H23. 2. 9 | 第1回SALSA国際ワークショップ(東京大学) | Green conservation and greening policies in Saitama | Y. Masutomi |
| H23. 2. 9 | 埼玉県地震対策セミナー(さいたま市) | 関東平野中央部における地下温度環境の変化 | 宮越昭暢 ¹⁵⁾ 、林武司 ³⁸⁾ 、八戸昭一、濱元栄起 |
| H23. 2. 13 | 荒川流域ネットワーク(日高市) | 入間川水系アユ遡上作戦 | 金澤光 |
| H23. 2. 16 | 第26回全国環境研究所交流シンポジウム(つくば市) | 埼玉県における県民参加を主体としたオゾンによるアサガオ被害調査 | 三輪誠 |
| H23. 2. 17 | 第26回全国環境研究所交流シンポジウム(つくば市) | 埼玉県におけるアライグマの生息状況 | 嶋田知英 |
| H23. 2. 28 | Feedback seminars "Human impacts on Urban Subsurface Environment" (Bangkok, Thailand) | Accumulation of heat in the subsurface of the Bangkok metropolitan area | H. Hamamoto, M. Yamano ³⁶⁾ , M. Vuthy ⁸⁹⁾ , S. Kamioka ⁹⁰⁾ , S. Hachinohe, M. Taniguchi ⁴⁰⁾ , O. Lorphensri ⁹¹⁾ |
| H23. 3. 8 | 平成22年度関東地方大気環境対策推進連絡会浮遊粒子状物質調査会議講演会(東京都新宿区) | 微小粒子中炭素成分測定法の現状と課題 | 長谷川就一 |

(注) 共同研究者の所属機関名は206ページに一覧にした。

5. 3. 5 報告書

| 報 告 書 名 | 発 行 者 | 執 筆 分 担 | 執筆者 | 発行年 | 抄録 |
|------------------------------------|--------------------------------|---|----------------------|-----|------|
| 埼玉県ヒートアイランド現象対策事業 ヒートアイランド調査報告書 | 埼玉県環境部温暖化対策課、 埼玉県環境科学国際センター | 全章 | 嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 | H22 | 205頁 |
| 埼玉県庁一斉退庁等による二酸化炭素排出削減効果調査報告書 | 埼玉県環境科学国際センター、 埼玉県環境部温暖化対策課 | 全章 | 嶋田知英 竹内庸夫 | H22 | 205頁 |
| 平成21年度ムサントミヨ保護事業報告書 | 埼玉県環境科学国際センター | 第1章 ムサントミヨとは 第2章 飼育下での繁殖試験 第3章 地下水水温、採取量 第4章 生息地における水質測定結果 第5章 生息地における底生動物調査 第6章 移殖適地調査 第7章 ムサントミヨの遺伝的多様性を解析するためのDNAマーカーの開発 | 金澤光 木持謙 三輪誠 | H22 | 205頁 |

5.3.6 書籍

| 書籍名 | 出版社 | 執筆分担 | 執筆者 | 発行年 |
|-----------------------|------|--|---------------|-----|
| 環境分析ガイドブック 日本分析化学編 | 丸善 | 第6章 大気試料分析、6.2 一般大気、6.2.4 PM2.5・ナノ粒子の分析、6.2.6 PCB 第7章 水試料分析、7.2環境水(河川水・湖沼水) 7.2.4 有機成分 PCB | 長谷川就一 堀井勇一 | H23 |
| イオンクロマトグラフィー | 共立出版 | Chapter 2 イオンクロマトグラフィーの基礎 Chapter 3 イオンクロマトグラフの最適化と装置の保守 Chapter 4 イオンクロマトグラフの測定技術 Chapter 5 イオンクロマトグラフ分析の実技 Chapter 6 データの処理と評価 Chapter 7 イオンクロマトグラフィーの応用分析例 | 鈴木和将 | H22 |
| アジア巨大都市ー都市景観と水・地下環境ー | 新泉社 | 3-4 地下街(p.92-93) 3-5 地下鉄(p.94-95) | 濱元栄起 | H23 |

5.3.7 センター報

| 種別 | 課題名 | 執筆者 | 掲載号 |
|------|----------------------------------|--|----------------------|
| 総合報告 | 里川再生テクノロジー事業の取組ー「川の国 埼玉」の実現に向けてー | 高橋基之、田中仁志、木持謙、石山高、 亀田豊、見島伊織、池田和弘、柿本貴志 | 第10号、66-76 (2010) |

5.4 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を図っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

(1)大学・民間企業等との共同研究・研究協力

平成22年度は、次の25課題を実施した。

共同研究・研究協力一覧

| 相手方 | 研究課題名及び概要 | 担当者 |
|---|--|--|
| 早稲田大学理工学術院 名古屋俊士 教授 | 「微細立体構造を有する光触媒複合材料を用いたVOC処理装置の開発」 磁場とめっき法を応用した独自の手法で立体格子構造体を作製し、この表面に光触媒を複合化させた材料を開発する。これを用いた各種VOCの分解特性を検討する。 | 大気環境担当 米持真一 |
| 吉野電化工業(株) | 「中小企業を対象としたVOC処理システムの開発」 光触媒のメリットを生かした中小企業向けのVOC処理装置を開発するため、独自に開発した立体格子構造を持つ担体に光触媒を担持させる手法および処理装置試作機の作製について検討を行う。 | 大気環境担当 米持真一 |
| (財)電力中央研究所 (独)国立環境研究所 | 「気温とオゾン濃度上昇が水稻の生産性におよぼす複合影響評価と適応方策に関する研究」 国内外の主要水稻品種の収量・品質におよぼす温度とオゾンの複合影響を実験的に解明するとともに、影響評価のための分子マーカーを探索し、評価手法の開発を行う。 | 温暖化対策担当 嶋田知英 自然環境担当 三輪誠 米倉哲志 |
| (独)国立環境研究所アジア 自然共生グループ広域大気 モデリング研究室 大原利真 室長 大阪市立環境科学研究所他 地方公共団体研究機関49機 関、愛媛大学、中部大学、 九州大学、奈良女子大学、 千葉大学、高崎経済大学、 (財)電力中央研究所 | 「PM2.5と光化学オキシダントの実態解明と発生源寄与評価に関する研究」 全国の地環研および国環研が、5つのグループに分かれて研究を進める。埼玉県は主として「観測グループ」に所属し、発生源寄与評価のためのPM2.5質量濃度および成分濃度の観測、VOC成分の観測を行うための基礎的事項の整理や観測手法などについて検討を行う。 | 温暖化対策担当 武藤洋介 大気環境担当 米持真一 長谷川就一 |
| さいたま市健康科学研究センター | 「微少粒子状物質(PM2.5)による大気汚染状況の研究」 健康影響が懸念されている粒径2.5 μ m以下の微少粒子状物質(PM2.5)について、埼玉県・さいたま市内の複数地点で質量濃度や化学組成を調査し、大気汚染状況の実態把握を行う。 | 大気環境担当 米持真一 |
| ジーエルサイエンス(株) | 「海成堆積物からの重金属類溶出特性の解析」 海成堆積物からの重金属類溶出特性を把握するとともに、溶出を促進する因子について元素ごとに解析する。 | 土壌・地下水・ 地盤担当 八戸昭一 石山高 |

| 相手方 | 研究課題名及び概要 | 担当者 |
|---|---|--------------------------------|
| 埼玉大学 地圏科学研究センター 小口千明 准教授 | 「自然地層からの重金属類の溶出と鉱物的特性に関する研究」 土壌・地下水汚染の防止に資するため、県内の自然地層を対象として重金属類の溶出特性を制御する地層の構成鉱物の特徴を把握する。 | 土壌・地下水・ 地盤担当 八戸昭一 石山高 |
| 埼玉大学大学院 理工学研究科 河村清史 教授 | 「自然由来土壌汚染の評価－海成堆積層からの重金属類溶出特性の解析」 土壌・地下水汚染の防止に資するため、県南東部の中川低地を中心とした地質試料を用いて土壌溶出量試験を実施し、海成堆積層から溶出する可能性の高い重金属類を特定するとともに、その特性を把握する。 | 土壌・地下水・ 地盤担当 八戸昭一 石山高 |
| 日本大学 理工学部土木工学科 吉田征史 専任講師 茨城大学 工学部都市システム工学科 藤田昌史 講師 | 「活性汚泥モデルの活用による下水道処理プロセスからの温室効果ガス発生抑制の検討」 下水道処理プロセスにおける有機物、窒素、リンの反応が解析可能である活性汚泥モデルを用いて、これらの物質反応を把握すると同時に、削減可能なエネルギー消費量を算定し、それに伴う温室効果ガスの発生抑制効果について検討する。 | 水環境担当 見島伊織 |
| 北海道大学大学院 工学研究科 船水尚行 教授 | 「人尿中に含まれる生理活性物質の発生源における処理法に関する研究」 尿を介して体外へ、そして最終的に環境中へ排出される医薬品の電気化学的酸化処理に関する研究を行う。電気化学的酸化処理における医薬品の反応経路を解明するとともに、尿中の共存物質による医薬品処理妨害影響の評価・軽減法の提案、尿中医薬品処理に適した電極の選択・再生法に関する検討を行い、環境中への医薬品排出量を効率的に削減できる要素技術を開発する。 | 水環境担当 柿本貴志 |
| 早稲田大学 真下建設(株) | 「ゼオライトろ床と植栽を組み合わせた里川技術の開発」 植栽浄化法とビオトープの長所を抽出・融合した「里川再生技術」と、住民による作業を想定した持続的維持管理手法の開発を行う。浄化効率や維持管理特性等の浄化施設の視点と、水生生物等への生息場所としての有効性等のビオトープの視点から研究開発を進める。また、他サイトへの適用も見据えた仕様設計のための知見を蓄積するとともに、施設の維持管理や生物観察会への学校や地域住民の参加を積極的に促し、地域で持続可能な技術を目指す。 | 水環境担当 木持謙 自然環境担当 金澤光 |
| 高知大学 北海道大学大学院 (独)国立環境研究所 岡山大学大学院 北見工業大学 京都大学大学院 鳥取大学大学院 | 「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理、カスケード型資源循環システムの構築」 食料生産の場である農業地域の持続可能な水処理を実現するシステムを構築するため、排出源における集中処理が可能な都市域とは異なり排出源が面的に分散している農業地域において、「面的」な水処理技術を構築する。また、農業地域における適切な循環システムを構築するため、バイオマス資源の質と分布状況に応じた「カスケード型資源循環システム」を構築する。 | 資源循環・廃棄物担当 長谷隆仁 |

| 相手方 | 研究課題名及び概要 | 担当者 |
|----------------------------------|---|-----------------------------|
| 埼玉大学大学院 理工学研究科 川本健 准教授 | 「廃棄物処分場における土壌ガス挙動のモデル化と環境リスク評価手法の構築」 実処分場においてガスフラックスや湿度分布をモニタリングするとともに、採取した覆土等のガス拡散・移流・分配に関するパラメータを実測し、処分場内におけるガスの挙動を解明する。 | 資源循環・廃棄物担当 倉田泰人 長森正尚 |
| 東北大学大学院 環境科学研究科 浅沼宏 准教授 | 「表面波伝搬特性に関する基礎的研究」 地盤振動に含まれる表面波から、地下構造情報などの有用情報を効率的に抽出する方法を開発するために、伝搬特性に着目した理論的な検討を行う。 | 土壌・地下水・地盤担当 白石英孝 |
| 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 須貝俊彦 教授 | 「地質地盤インフォメーションシステムを利用した県北部地域及び川越比企地域における地質構造の評価」 県北部地域及び川越比企地域における地質構造を平面的に評価・解析し、自然の地層中に含まれる各種化学元素の賦存量や地下水の水質形成機構を把握する。 | 土壌・地下水・地盤担当 八戸昭一 |
| (独)産業技術総合研究所 | 「地質地盤インフォメーションシステムによる地域環境特性の解析」 地質地盤インフォメーションシステムに搭載されたボーリングデータを使用して埼玉県内の地質構造を評価し、当該地域固有の地域環境特性を解析する。 | 土壌・地下水・地盤担当 八戸昭一 |
| (独)産業技術総合研究所 秋田大学 | 「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。 | 土壌・地下水・地盤担当 八戸昭一 濱元栄起 |
| 東京大学地震研究所 山野誠 准教授 | 「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の推進に役立つ基礎データの取得と行うとともに、地球科学的研究のために深部の地下温度構造等の推定を行う。 | 土壌・地下水・地盤担当 濱元栄起 |
| 日本大学理工学部 竹村貴人 専任講師 | 「カオリン粘土中ダイオキシン類の起源と生成メカニズムの解明に関する研究」 自然界、特にカオリン粘土中に存在するダイオキシン類の起源とその生成メカニズムを解明するための研究を行う。 | 化学物質担当 堀井勇一 |
| 東京大学大学院 滝沢智 教授 | 「気候変動への対応を目的とした都市域の地下水管理に関する研究」 荒川流域を中心とする都市圏の地下水の持続可能な利用を目的として、これまでの水利用や地下水資源に関するデータを整理・解析する。 | 土壌・地下水・地盤担当 八戸昭一 |
| (財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 | 「光化学オキシダントに係る大気汚染に関する研究」 光化学オキシダントに寄与する揮発性有機化合物等の広域的濃度分布を把握するため、東京都内と埼玉県内の地点を選定し、光化学オキシダント及びその原因物質である揮発性有機化合物等の調査研究を行う。 | 大気環境担当 米持真一 |

| 相手方 | 研究課題名及び概要 | 担当者 |
|--|--|--|
| 埼玉大学大学院 理工学研究科 河村清史 教授 | 「水環境における内部生産有機物の物理的・化学特性と環境影響」 水環境において景観の悪化を引き起こす発泡やざらつき現象の要因として推定される自然由来の内部生産有機物に関して物理化学特性を明らかにし、水環境への影響を評価する研究を行う。 | 水環境担当 高橋基之 池田和弘 |
| 東京農工大学 (財)電力中央研究所 (財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 神奈川県環境科学センター 長野県環境保全研究所 | 「自治体(都道府県、市町村)レベルでの影響評価と総合的適応政策に関する研究(埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究)」 大学、研究機関と関東・中部地域の研究所が協力しながら地域社会の諸側面に及ぼす温暖化影響を総合的に分析することにより、地域スケールの定量的な影響評価及び脆弱性評価に係る手法を確立する。また、地域社会に即した体系的な適応方策のあり方を探求し、地方自治体で適用可能な適応戦略・政策ガイドラインを作成する。 | 温暖化対策担当 嶋田知英 増富祐司 自然環境担当 三輪誠 米倉哲志 |
| (独)農業環境技術研究所 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 | 「農業・食料生産における温暖化影響と適応策の広域評価(不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価)」 米及び米以外の作物(麦、大豆、果樹)への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を、予測の不確実性モデルを考慮に入れて広域的に評価するため、対象とする作物ごとに広域スケールに適用できる影響予測モデルや評価手法を開発する。また、モデルを使用し、複数の将来気候の予測値を外力として、予測の不確実性を考慮に入れた評価を実施する。 | 温暖化対策担当 増富祐司 |
| 高知大学 京都大学 | 「水生・底生生物を用いた総毒性試験と毒性同定による生活関連物質・評価手法の開発」 日常生活で大量に使用・排出される医薬品や化粧品等のパーソナルケア製品等の毒性影響を評価するため、採取した生活排水を多く含む河川水と底質に対して生態毒性試験を実施して総毒性を求め、採水・前処理した水試料について医薬品類と界面活性剤およびパーソナルケア製品といった生活関連化学物質濃度を測定し、各生活関連化学物質の総毒性に対する寄与率を算出するとともに、未知の化学物質の毒性同定評価も試みる。 | 水環境担当 亀田豊 |

(2) 大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

| 所 属 | 数 | 摘 要 |
|-----------------------|----|------------------------|
| 埼玉大学工学部 | 1名 | 地圏科学研究センター 小口千明 准教授 |
| 埼玉大学大学院理工学研究科 研究生 | 1名 | 理工学研究科 河村清史 教授 |
| 埼玉大学大学院 博士前期課程 | 1名 | |
| 埼玉大学大学院理工学研究科 博士後期課程 | 3名 | 理工学研究科 川本健 准教授 |
| 早稲田大学大学院創造理工学研究科 修士課程 | 1名 | 理工学術院 名古屋俊士 教授 |
| 日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程 | 1名 | 理工学部 吉田征史 専任講師 |
| 日本大学理工学部 | 5名 | |
| 日本大学文理学部 | 1名 | 理工学部 竹村貴人 専任講師 |

実習生の受入実績

| 所 属 | 数 | 実 習 期 間 |
|--------------------|----|--------------------|
| 早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 | 2名 | 平成22年 8月 4日～ 8月13日 |
| 明星大学理工学部環境システム学科 | 2名 | 平成22年 7月24日～ 9月 7日 |
| 茨城大学工学部都市システム工学科 | 1名 | 平成22年 8月31日～ 9月10日 |

(3) 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

| 氏 名 | 所 属 ・ 役 職 |
|--------|--------------------------------|
| 坂本 和彦 | 埼玉大学大学院理工学研究科 教授 |
| 伊豆田 猛 | 東京農工大学大学院共生科学技術研究院 教授 |
| 宮脇 健太郎 | 明星大学理工学部総合理工学科 教授 |
| 大浦 健 | 名城大学農学部生物環境科学科 准教授 |
| 水落 元之 | (独)国立環境研究所 アジア自然共生研究グループ 主任研究員 |
| 山野 誠 | 東京大学地震研究所 准教授 |
| 小口 千明 | 埼玉大学地圏科学研究センター 准教授 |

(4) 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

| 氏 名 | 所 属 ・ 役 職 |
|-------|-------------------------------|
| 秋元 肇 | (財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 所長 |
| 岡田 光正 | 広島大学大学院工学研究科 教授 |
| 榊原 豊 | 早稲田大学理工学術院 教授 |
| 田中 充 | 法政大学 大学院政策科学研究科・政策科学専攻 教授 |
| 田村 俊和 | 立正大学地球環境科学部 教授 |
| 原澤 英夫 | 国立環境研究所社会環境システム研究領域 領域長 |

5.5 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

| 期 日 | 講 義 内 容 | 講義場所 | 氏 名 |
|---------|--|-------------------------|------|
| H22年度 | 東北大学大学院客員教授 「環境機能利用工学」 | 東北大学 | 須藤隆一 |
| H22年度後期 | 東北文化学園大学大学院客員教授 「演習」 | 東北文化学園大学 | 須藤隆一 |
| H22年度 | 埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「数値解析データ情報処理(E)」、「環境応用光学」、 「光散乱応用センシング特論」 | 埼玉大学 | 門野博史 |
| H22年度前期 | 埼玉大学工学部非常勤講師 「化学序説」 | 埼玉大学 | 米持真一 |
| H22年度 | 埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」、「水環境汚染評価」、「土壌地下水汚染特論」 | 埼玉大学 | 石山高 |
| H22年度 | 埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」、「大気環境測定演習」、「汚染負荷評価」 | 埼玉大学、 環境科学国際 センター | 三輪誠 |

(2) 客員研究員

| 委 嘱 期 間 | 相 手 機 関 | 氏 名 |
|---------------------|-----------------------|-------|
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 須藤隆一 |
| H22. 8.17～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 須藤隆一 |
| H22. 8.17～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 増富祐司 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 長谷川就一 |
| H22. 1. 1～H26.12.31 | 中国遼寧大学環境学院 | 王効挙 |
| H22. 6. 1～H25. 6.30 | 中国上海大学 | 王効挙 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 倉田泰人 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 渡辺洋一 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 長森正尚 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 川岸幹生 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 長谷隆仁 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 磯部友護 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 鈴木和将 |
| H22. 4. 1～H24. 3.31 | 独立行政法人 産業技術総合研究所 | 堀井勇一 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 独立行政法人 国立環境研究所 | 木持謙 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 立命館大学 | 見島伊織 |
| H22. 4.27～H23. 3.31 | 独立行政法人 産業技術総合研究所 | 八戸昭一 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 東京大学地震研究所 | 濱元栄起 |
| H22. 4. 1～H23. 3.31 | 大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所 | 濱元栄起 |

(3) 研修会・講演会等の講師

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|------------|---|---------|------|
| H22. 4. 11 | 入間川・越辺川アユ標識放流指導 | 狭山市、川島町 | 金澤光 |
| H22. 4. 13 | 水環境戦略タスクフォース講演 「水環境保全の課題」 | 東京都千代田区 | 須藤隆一 |
| H22. 4. 14 | アサガオ調査説明会 | 狭山市 | 三輪誠 |
| H22. 4. 26 | 平成22年度埼玉県地球温暖化防止活動推進員、埼玉県環境アドバイザー及び環境教育アシスタント委嘱式記念講演 「低炭素社会づくりと地域活動」 | さいたま市 | 須藤隆一 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|----------------|--|------------|---|
| H22. 4. 27 | 彩の国いきがい大学 里川再生クリニック「原市沼川の調査計画」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 |
| H22. 5. 8 | アサガオ調査説明会 | 環境科学国際センター | 三輪誠 |
| H22. 5. 9 | あさか環境市民会議講演会 「生物多様性とその保全」 | 朝霞市 | 嶋田知英 |
| H22. 5. 9 | アサガオ調査説明会 | 環境科学国際センター | 三輪誠 |
| H22. 5. 11 | KES環境機構総会記念講演 「わが国の温室効果ガス削減中長期目標達成について」 | 京都市 | 須藤隆一 |
| H22. 5. 13 | 日本薬科大学早期体験学習 「地球環境問題概論」 | 環境科学国際センター | 竹内庸夫 |
| H22. 5. 15 | アサガオ調査説明会 | 環境科学国際センター | 三輪誠 |
| H22. 5. 17 | 彩の国いきがい大学 「生物多様性とその保全」 | 伊奈町 | 嶋田知英 |
| H22. 5. 21 | 埼玉県環境計量協議会総会特別講演 「今後の環境保全の在り方」 | さいたま市 | 須藤隆一 |
| H22. 5. 21 | 彩の国いきがい大学 「建設廃棄物の資源化と不法投棄」、「ビオトープについて」 | 環境科学国際センター | 倉田泰人 嶋田知英 |
| H22. 5. 22 | E-TEC&KIESSジョイントセミナー 「持続可能な社会を目指して」 | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 5. 26 | 秩父環境管理事務所 横瀬川里川づくり環境学習 「秩父の里川「横瀬川」を見よう・知ろう・考えよう」 | 秩父市立原谷小学校 | 高橋基之 田中仁志 |
| H22. 5. 27 | JICA 平成22年度(国別研修)シリア「日本における大気汚染イン スペクション」 「大気測定法概論」 | 環境科学国際センター | 梅沢夏実 |
| H22. 5. 28 | 2010NEW環境展記念セミナー 自治体における事業系ごみ対策と産廃搬入規制の動向 「県内全域で取り組む事業系ごみ対策」 | 東京都江東区 | 川寄幹生 |
| H22. 6. 1 | 環境部新任職員研修 「環境問題と環境科学国際センターの取り組み」 | さいたま市 | 竹内庸夫 |
| H22. 6. 3 | 彩の国いきがい大学 「大気汚染の現状と課題」 | 伊奈町 | 竹内庸夫 |
| H22. 6. 4 | 秩父環境管理事務所 横瀬川里川づくり環境学習 「秩父の里川「横瀬川」を見よう・知ろう・考えよう」 | 秩父市立高篠小学校 | 田中仁志 木持謙 |
| H22. 6. 7-8 | 土壌・地下水汚染担当者研修 | 環境科学国際センター | 細野繁雄 佐坂公規 長森正尚 高橋基之 白石英孝 八戸昭一 石山高 濱元栄起 |
| H22. 6. 7 | 埼玉県立春日部高校出前講座 里川再生クリニック「水環境調査について」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 田中仁志 |
| H22. 6. 9 | 水環境戦略タスクフォース「水環境に関するシンポジウム」 「今後の水環境戦略」 | 東京都港区 | 須藤隆一 |
| H22. 6. 10 | 新座市大和田公民館環境講座 「地球環境問題～地球温暖化を身近に考えよう～」 | 新座市 | 竹内庸夫 |
| H22. 6. 10 | 彩の国いきがい大学 「湧水と環境保全」 | 伊奈町 | 高橋基之 |
| H22. 6. 11 | 日本機械学会講習会No.10-35大気汚染の最新の状況 「新たな大気環境基準PM2.5とその環境動態および二次生成 粒子の寄与」 | 東京都新宿区 | 長谷川就一 |
| H22. 6. 11 | 出前講座 「日常生活と水環境」 | 鴻巣市立川里中学校 | 木持謙 |
| H22. 6. 12 | E-TEC特別セミナー 「汚水処理の微生物・生物処理の管理」(第1回) | 仙台市 | 須藤隆一 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|------------|--|--------------------|---------------------------|
| H22. 6. 18 | 本庄市立藤田小学校総合学習小山川と元小山川の生き物調査 | 本庄市 | 金澤光 王効挙 米倉哲志 木持謙 |
| H22. 6. 18 | 加須市環境教育研究部主任研究協議会出前講座 「生物から見た水環境」 | 加須市立大桑小学校 | 田中仁志 |
| H22. 6. 19 | アサガオ調査説明会 | 環境科学国際センター | 三輪誠 |
| H22. 6. 20 | 富士見市水谷東公民館主催柳瀬川生き物調査 | 富士見市、新座市、 所沢市 | 金澤光 |
| H22. 6. 22 | 彩の国いきがい大学 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 熊谷市 | 嶋田知英 |
| H22. 6. 23 | 平成22年度JICA集団研修「廃棄物総合管理及び3R」 | 環境科学国際センター | 川寄幹生 |
| H22. 6. 24 | 和光市環境づくり市民会議講演会 「生物多様性保全戦略と私達ができることは」 | 和光市 | 嶋田知英 |
| H22. 6. 24 | ムサシトミヨ保全推進協議会総会 「平成21年度ムサシトミヨ保護事業について」 | 熊谷市 | 金澤光 |
| H22. 6. 25 | 大気規制に係る分析測定研修会 「ダイオキシン類の分析測定に係る注意点、測定結果の見方等」 「窒素酸化物、石綿、VOCの測定方法」 | 環境科学国際センター | 大塚宜寿 竹内庸夫 梅沢夏実 |
| H22. 6. 25 | 桶川市篠津地区田んぼの生き物調査 | 桶川市 | 金澤光 |
| H22. 6. 25 | 専門研修会(産業廃棄物指導課) | さいたま市 | 川寄幹生 |
| H22. 6. 27 | 熊谷市の環境を考える協議会 「埼玉県の自然環境」 | 環境科学国際センター | 王効挙 |
| H22. 6. 29 | 彩の国いきがい大学 「自然保護について考える」 | 入間市 | 嶋田知英 |
| H22. 6. 30 | ムサシトミヨをまもる会総会 「平成21年度ムサシトミヨ保護事業について」 | 熊谷市 | 金澤光 |
| H22. 7. 3 | E-TEC特別セミナー 「汚水処理の微生物・生物処理の管理」(第2回) | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 7. 4 | 田んぼの生き物調査 「水質調査と田んぼの生き物調査」 | 川島町 | 金澤光 木持謙 王効挙 |
| H22. 7. 6 | 上尾市消費者グループ「ハッピーアイランド」 「私たちの生活と化学物質(生活編)」 | 環境科学国際センター | 細野繁雄 |
| H22. 7. 8 | 彩の国いきがい大学 「生物多様性とその保全」 | 伊奈町 | 嶋田知英 |
| H22. 7. 9 | 第6回韓・日環境シンポジウム 「水資源の循環と処理水の再生」 | 韓国・済州大学校海洋 科学大学 | 須藤隆一 |
| H22. 7. 11 | 小川町 田んぼのいきもの観察会 | 小川町 | 嶋田知英 |
| H22. 7. 11 | JAいるま野 アグリキッズスクール田んぼ生きもの観察会 | 日高市 | 嶋田知英 |
| H22. 7. 13 | 彩の国いきがい大学 「埼玉県における光化学スモッグによる植 物被害ー県民参加によるアサガオ被害調査を中心にー」 | 環境科学国際センター | 三輪誠 |
| H22. 7. 13 | 彩の国いきがい大学 「埼玉県の地盤と環境」 | 熊谷市 | 八戸昭一 |
| H22. 7. 15 | 彩の国いきがい大学 「生物多様性とその保全」 | 蕨市 | 嶋田知英 |
| H22. 7. 17 | 環境科学国際センター 夏のイベント 「川の生物で環境調査をしよう」 | 環境科学国際センター | 田中仁志 |
| H22. 7. 19 | 県民実験教室 「大気の性質を調べてみよう」 | 環境科学国際センター | 松本利恵 佐坂公規 |
| H22. 7. 19 | 川ガキ養成西部塾 「CESS出前実験室」 | 飯能市 | 高橋基之 柿本貴志 |
| H22. 7. 20 | 彩の国いきがい大学 「埼玉の里川」 | 熊谷市 | 高橋基之 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|---------------|--|------------|---------------------|
| H22. 7. 21 | 三郷市「メダカくらぶ かえるクラブ」 「水生生物について/現地調査」 | 三郷市 | 田中仁志 |
| H22. 7. 22 | 新座市栗原公民館 黒目川の川の観察会 | 新座市 | 金澤光 |
| H22. 7. 22 | 栃木県下野市南河内公民館青少年講座「ガッテン! 科学の芽」 「日常生活と水環境」 | 環境科学国際センター | 木持謙 |
| H22. 7. 23 | 蓮田市水環境に関する研修会 「水質調査のやり方について」 | 蓮田市 | 高橋基之 |
| H22. 7. 24 | 小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ イベント 「川の探検隊」 | 本庄市 | 金澤光 木持謙 |
| H22. 7. 24 | 環境科学国際センター夏のイベント 「水の性質を調べてみよう」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 |
| H22. 7. 27-29 | 中国吉林省環境技術セミナー 「環境保全概論」、「排水処理概論」、 「日本下水汚泥処理の現状及びその対策」、 「工場排水の生物処理法」、「小規模排水の処理技術」 | 中国吉林省 | 須藤隆一 王効挙 見島伊織 |
| H22. 7. 27 | 彩の国いきがい大学 「ビオトープについて」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 7. 28 | 中国吉林省農業研究院講演 「水資源の循環利用と処理水の再生」 | 中国吉林省 | 須藤隆一 |
| H22. 7. 28 | 久喜市子供自然観察会 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 8. 3 | 桶川市環境教育研究会(環境教育部)研修会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 8. 3 | 出前講座 「六価クロムの測定方法とその問題点」 | 埼玉県立松山高等学校 | 石山高 |
| H22. 8. 4 | わしのみや自然保護ボランティア会自然観察会 | 久喜市 | 嶋田知英 |
| H22. 8. 6 | 羽生市環境教育研究会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 羽生市 | 嶋田知英 |
| H22. 8. 6 | 都幾川のアユ地曳き網指導 | 嵐山町 | 金澤光 |
| H22. 8. 6 | 川ガキ養成北部塾 「水の生き物調査隊」 | 寄居町 | 木持謙 見島伊織 |
| H22. 8. 7 | E-TEC特別セミナー 「汚水処理の微生物・生物処理の管理」(第3回) | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 8. 7 | 環境科学国際センター生態園体験教室 「昆虫の標本を作ろう」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 8. 7 | 荒川流域第14回流域再生シンポジウム 「地球温暖化の影響と対策」 「2010年度標識アユ放流調査の中間報告」 | 嵐山町 | 増富祐司 金澤光 |
| H22. 8. 10 | 埼玉県総合教育センター江南支所研修会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 8. 21 | 男堀川の生物観察会 「川の生物観察(川の浄化について)」 | 本庄市 | 金澤光 木持謙 |
| H22. 8. 22 | 黒目川生き物調査 「こどもエコクラブイベント・新座の自然をいろいろ体験しよう」 | 新座市 | 金澤光 |
| H22. 8. 24 | 県立春日部高校SSH講座 「河川の水質及び生態と環境の課題」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 田中仁志 |
| H22. 8. 25 | 三郷市「メダカくらぶ かえるクラブ」 「報告書の作成について/現地調査」 | 三郷市 | 田中仁志 |
| H22. 8. 26 | 川越市・こどもエコクラブ研修会 「水生生物調査～川の生きものから水質を調べよう!～」 | 日高市、川越市 | 田中仁志 |
| H22. 8. 28 | 彩の国環境大学校開校式基調講座 「持続可能な社会を目指した産官学民の連携」 | 環境科学国際センター | 須藤隆一 |
| H22. 9. 1 | 彩の国いきがい大学 「騒音・振動について」 | 伊奈町 | 白石英孝 |
| H22. 9. 2 | 彩の国いきがい大学 「酸性雨について」 | 伊奈町 | 松本利恵 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|----------------|---|------------|-----------------------|
| H22. 9. 3 | (社)環境測定分析協会講演 「今後の水環境保全の課題と展望」 | 千葉市 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 9 | 第13回日本水環境学会シンポジウム講演 「有用微生物の優占化と機能強化をめぐる課題」 | 京都大学 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 11 | E-TEC特別セミナー 「汚水処理の微生物・生物処理の管理」(第4回) | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 11 | 越辺川のアユ地曳き網漁指導 | 鳩山町 | 金澤光 |
| H22. 9. 12 | 身近な環境観察局新規応募者研修会 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 9. 14 | 熊谷の自然と環境を考える講座 「建設廃棄物の資源化と不法投棄」 | 熊谷市 | 倉田泰人 |
| H22. 9. 15 | 第563回建設技術講習会講演 「水環境保全の課題と展望」 | さいたま市 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 16 | 技術講習会(建設管理課)「再生砕石の使用について」 | さいたま市 | 川寄幹生 |
| H22. 9. 17 | 水質異常研修会(水環境課主催) | 滑川町 | 金澤光 |
| H22. 9. 21 | 短期講座「水道工学研修」「水源保全システム」 | 和光市 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 21 | 熊谷の自然と環境を考える講座 「土壌汚染の現状とその取り組み」 | 熊谷市 | 石山高 |
| H22. 9. 22 | 彩の国いきがい大学 「自然の力で里川再生」 | 東松山市 | 高橋基之 |
| H22. 9. 26 | 本庄市市民総合大学必修講座 「水質と魚からみた本庄地域の河川環境」「日常生活と水環境」 | 本庄市 | 金澤光 木持謙 |
| H22. 9. 26 | みどりと川の再生埼玉フォーラムin嵐山 「CESS出前実験室」 | 嵐山町 | 高橋基之 田中仁志 池田和弘 |
| H22. 9. 29 | メガトレンド・セミナー 「水環境保全のための目標および基準-1,4-ジオキサン等環境 基準・排出基準の動向と今後の展望-」 | 東京都港区 | 須藤隆一 |
| H22. 9. 29 | 里川づくり環境学習 「身近な川を考える」 | 深谷市立桜ヶ丘小学校 | 木持謙 |
| H22. 9. 30 | 出前講座 「日常生活と水環境」 | 東松山市立新宿小学校 | 木持謙 |
| H22. 10. 1 | 埼玉県建設リサイクル法推進連絡調整会議講習会 「家屋解体現場の石綿含有廃棄物について」 | さいたま市 | 川寄幹生 |
| H22. 10. 5 | 里川づくり環境学習 「河川の有機汚濁と富栄養化」 | 飯能市立南高麗中学校 | 柿本貴志 |
| H22. 10. 6 | (株)エフテック 第2回世界環境会議 「地球温暖化の概要」 | 熊谷市 | 竹内庸夫 |
| H22. 10. 7 | 公害防止主任者資格認定講習(ダイオキシン類関係) | さいたま市 | 大塚宜寿 |
| H22. 10. 8 | 坂戸保健所 医師臨床研修 「地球温暖化について」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 10. 9 | E-TEC特別セミナー 「汚水処理の微生物・生物処理の管理」(第5回) | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 10. 9 | 彩の国環境大学 「埼玉県の温暖化の実態とその影響～温暖化 の生物・農業・健康への影響～」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 10. 10 | 本庄市民総合大学講座 「水質と川魚料理で学ぶ小山川」 | 本庄市 | 金澤光 |
| H22. 10. 13 | 石綿含有建材講習会 「目視による石綿含有廃棄物の見分け方について」 | 東京都中央区 | 川寄幹生 |
| H22. 10. 14 | 県立白岡高校 環境アドヴァイザー講演会 「地球環境概論-地球温暖化にどう対応するか-」 | 埼玉県立白岡高校 | 竹内庸夫 |
| H22. 10. 14 | 埼玉県消費者大会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | さいたま市 | 嶋田知英 |
| H22. 10. 14 | ムサシトミヨ繁殖調査技術指導 | 熊谷市立熊谷東中学校 | 金澤光 |
| H22. 10. 14-15 | 公害防止主任者資格認定講習(大気関係) | さいたま市 | 梅沢夏実 佐坂公規 長谷川就一 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|-------------------|---|------------|---------------------|
| H22. 10. 16 | 流下仔アユ採集研修会 | 朝霞市 | 金澤光 |
| H22. 10. 17 | 埼玉サイクリングフェスティバル サイエンスショー「-196℃の世界」 | 熊谷市 | 梅沢夏実 |
| H22. 10. 21 | ムサントミヨ繁殖調査技術指導 | 熊谷市立佐谷田小学校 | 金澤光 |
| H22. 10. 21-22 | 公害防止主任者資格認定講習(水質関係) | さいたま市 | 木持謙 亀田豊 見島伊織 |
| H22. 10. 22 | 東京都平成22年度水生生物講演会 「水生生物の保全に向けて」 | 東京都新宿区 | 須藤隆一 |
| H22. 10. 22 | 不法投棄防止対策研修会 「県内全域で取り組む事業系ごみ対策」 | さいたま市 | 川寄幹生 |
| H22. 10. 23 | 比企の川づくり協議会 「外来魚駆除研修会」 | 滑川町 | 金澤光 |
| H22. 10. 24 | 権現堂調節池“浮きウキフェスタ22” CESS出前実験室 | 幸手市 | 高橋基之 亀田豊 池田和弘 |
| H22. 10. 25 | ものづくり大学建設技能工芸学科授業 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | ものづくり大学 | 嶋田知英 |
| H22. 10. 29 | 野火止用水生き物調査(新座市環境保全協力員の会) | 新座市 | 金澤光 |
| H22. 10. 29 | 入間地区工事検査事務研究会出前講座 「建設廃棄物の資源化と不法投棄」 | 環境科学国際センター | 倉田泰人 |
| H22. 10. 29 | 春日部市市民大学出前講座 「日常生活と水環境」 | 春日部市 | 木持謙 |
| H22. 10. 29 | 産業技術連携推進会議 地質・環境分野講演会 「地盤情報、地下水および土壌の統合データベース構築」 | 札幌市 | 八戸昭一 |
| H22. 10. 30 | 環境大学基礎過程 「健全な水循環と里川の再生」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 |
| H22. 11. 2 | 中国上海大学水環境保全セミナー 「日本における生活排水処理技術及び新しい動向」 | 中国上海大学 | 王効挙 木持謙 田中仁志 |
| H22. 11. 3 | 中国浙江省寧波市農村地域環境保全交流会 「日本における農村地域の環境保全について」 | 中国浙江省 | 王効挙 木持謙 田中仁志 |
| H22. 11. 4 | 坂戸保健所医師臨床研修 「地球温暖化について」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H22. 11. 4 | ムサントミヨ繁殖調査技術指導 | 熊谷市立久下小学校 | 金澤光 |
| H22. 11. 6 | 加須市環境フォーラム2010 「地球温暖化問題についてー私たちがやるべきことー」 | 加須市 | 須藤隆一 |
| H22. 11. 6 | 彩の国環境大学 「気になる暮らしの化学物質(生活編)」 | 環境科学国際センター | 野尻喜好 |
| H22. 11. 9 | 環境マネジメントシステム説明会講演 「東日本環境機構(EES)の認証・登録制度について」 | さいたま市 | 須藤隆一 |
| H22. 11. 9-10 | 公害防止主任者資格認定講習(騒音・振動関係) | さいたま市 | 白石英孝 濱元栄起 |
| H22. 11. 10 | 彩の国いきがい大学 「地下世界を探る」 | 伊奈町 | 八戸昭一 |
| H22. 11. 11 | 本庄市立藤田小学校総合学習 「小山川と元小山川の生き物調査」 | 本庄市 | 金澤光 |
| H22. 11. 12 | 東北大学大学院工学研究科土木工学専攻環境機能利用工学 三菱マテリアル寄付講座シンポジウム「循環型社会をめざして」 | さいたま市 | 須藤隆一 |
| H22. 11. 14 | 県民の日特別企画 サイエンスショー「-196℃の世界」 | 環境科学国際センター | 梅沢夏実 佐坂公規 |
| H22. 11. 14 | 本庄市民総合大学講座 「元小山川の自然観察会」 | 本庄市 | 金澤光 木持謙 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|-------------|--|-------------|------------------------------|
| H22. 11. 15 | 第37回環境保全・公害防止研究発表会 「水環境をめぐる課題と展望」 | さいたま市 | 須藤隆一 |
| H22. 11. 16 | さいたま市土合公民館市民講座 「地球温暖化に伴う生物への影響」 | さいたま市 | 嶋田知英 |
| H22. 11. 16 | 里川づくり環境学習 「身近な川について考える」 | 熊谷市立妻沼小学校 | 木持謙 |
| H22. 11. 18 | 県立児玉白楊高校課題研究授業 「埼玉県の大气環境」 | 埼玉県立児玉白楊高校 | 竹内庸夫 |
| H22. 11. 18 | 花咲徳栄高校出前講座 「光触媒って何？(その作用と特徴)」 | 環境科学国際センター | 米持真一 |
| H22. 11. 20 | 低炭素まちづくりフォーラム 「生物多様性とその保全」 | さいたま市 | 嶋田知英 |
| H22. 11. 24 | 行田市民大学出前講座 「日常生活と水環境」 | 環境科学国際センター | 木持謙 |
| H22. 11. 29 | 石綿含有建材講習会(建設廃棄物協同組合) 「目視による石綿含有廃棄物の見分け方について」 | 東京都中央区 | 川寄幹生 |
| H22. 11. 30 | 越谷市出羽公民館環境講座 「地球温暖化の話」 | 環境科学国際センター | 米倉哲志 |
| H22. 11. 30 | 日中環境友好交流促進会主催低炭素社会構築に関する研修会 「日本の環境保護型農業」 | 東京都千代田区 | 王効挙 |
| H22. 11. 30 | 吹上ロータリークラブ出前講座 「自然の力で里川再生」 | 鴻巣市 | 高橋基之 |
| H22. 12. 1 | 埼玉大学講座 「大気汚染物質と植物被害」 | 埼玉大学 | 米倉哲志 |
| H22. 12. 3 | 羽生市コミュニティ協議会研修会 「地球環境問題について」 | 羽生市 | 竹内庸夫 |
| H22. 12. 4 | こどもホタレンジャー指導者研修会 「水環境の保全と指標」 | 北九州市 | 須藤隆一 |
| H22. 12. 6 | 鉄鋼スラグ海域利用に関するシンポジウムー鉄イオンによる森づくりと地球温暖化防止への期待ー「海洋環境再生への期待」 | 東京大学 | 須藤隆一 |
| H22. 12. 8 | 環境・エネルギー講演会 「温暖化防止に向けて」 | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 12. 10 | 蓮田市市民大学 「地球環境問題概論」 | 蓮田市 | 竹内庸夫 |
| H22. 12. 10 | 里川づくり環境学習 「身近な川について考える」 | 熊谷市立長井小学校 | 木持謙 |
| H22. 12. 11 | こどもホタレンジャー指導者研修会 「水環境の保全と指標」 | 北杜市 | 須藤隆一 |
| H22. 12. 11 | 深夜化見直しシンポジウム 「パネルディスカッション」 | 獨協大学 | 竹内庸夫 |
| H22. 12. 12 | こどもホタレンジャー指導者研修会 「水環境の保全と指標」 | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H22. 12. 12 | 西埼玉地球温暖化防止対策ネットワーク設立総会記念講演 「地球温暖化と埼玉県」 | 川越市 | 米倉哲志 |
| H22. 12. 15 | 平成22年度第一回建設廃棄物適正処理講習会 「目で見てわかる？アスベスト」ーアスベスト含有建材を見分けることができるのかー | 東京都新宿区 | 渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護 鈴木和将 |
| H22. 12. 16 | さいたま市立日進中学校総合学習 「地球温暖化の話」 | さいたま市立日進中学校 | 竹内庸夫 |
| H22. 12. 16 | 花咲徳栄高校出前講座 「私たちの生活と化学物質(生活編)」 | 環境科学国際センター | 大塚宜寿 |
| H22. 12. 16 | 平成22年度第3回地下熱利用とヒートポンプシステム研究会 「地盤データベースの現状と地中熱利用促進に向けた試み」 | 春日部市 | 八戸昭一 |
| H22. 12. 18 | 中国科学技術協会特別講演 「環境保全および環境保全型農業」 | 中国貴州省 | 王効挙 |
| H22. 12. 21 | 花咲徳栄高校出前講座 「光触媒って何？(その作用と特徴)」 | 環境科学国際センター | 米持真一 |
| H22. 12. 22 | 花咲徳栄高等学校環境セミナー 「地球温暖化と埼玉県への影響」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H23. 1. 11 | 彩の国いきがい大学 「地球温暖化に対する取り組みと課題」 | 熊谷市 | 米倉哲志 |
| H23. 1. 12 | 埼玉大学バイオセンシング工学講義 「単細胞緑藻 <i>Chlamydomonas reinhardtii</i> を用いたバイオアッセイ」 | 埼玉大学 | 田中仁志 |
| H23. 1. 13 | 平成22年度「化学物質環境実態調査環境科学セミナー」講演 「埼玉県の取組ー環境中の紫外線吸収剤の生態リスク評価ー」 | 東京都品川区 | 亀田豊 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|------------------|--|------------|--|
| H23. 1. 15 | 第6回川の日ワークショップ関東大会 「あらかわ学会」 | さいたま市 | 金澤光 |
| H23. 1. 17 | 彩の国いきがい大学 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 久喜市 | 嶋田知英 |
| H23. 1. 18 | 蓮田市環境教育主任研究協議会 「地球環境問題概論」 | 環境科学国際センター | 竹内庸夫 |
| H23. 1. 19 | 平成22年度土木学会東北支部懇話会 「地球温暖化対策の課題と展望」 | 仙台市 | 須藤隆一 |
| H23. 1. 19 | 小山市農業集落排水事業連絡協議会出前講座 「自然の力で里川再生－木炭を使用したエコテクノロジーによる 水質浄化－」 | 環境科学国際センター | 高橋基之 |
| H23. 1. 21 | 加須地域衛生協力会出前講座 「私たちの生活と化学物質」 | 加須市 | 野尻喜好 |
| H23. 1. 22 | 環境大学フォローアップ研修 「生物多様性とその保全」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H23. 1. 24 | 廃棄物担当職員スキルアップ研修 「サンプリング関係」 | 熊谷市 | 渡辺洋一 大塚宜寿 |
| H23. 1. 25 | さいたま市立本太中学校出前講座 「空気中に浮遊する粒子状物質」、「生物多様性を考えよう」 「中国の発展と環境課題」、「日常生活と水環境」 「私たちの生活と化学物質(生活編)」 「埼玉県の地盤と環境」 | 環境科学国際センター | 米持真一 三輪誠 王効挙 木持謙 茂木守 八戸昭一 |
| H23. 1. 25 | 埼玉県環境計量協議会 新春講演会 「埼玉の水環境と里川の再生を考える」 | さいたま市 | 高橋基之 |
| H23. 1. 31 | 埼玉県環境科学国際センター講演会 「新たな大気環境基準PM2.5－大気中に浮かぶ微小な粒子の ふるまい－」 「ダイオキシンの汚染由来を探る－CESSで開発した推定方法と その応用－」 「本県の地震環境と当センターにおける地震防災への取り組み」 | さいたま市 | 長谷川就一 蓑毛康太郎 白石英孝 |
| H23. 2. 1 | 埼玉県清掃行政研究協議会第2ブロック研修会 「一般廃棄物焼却残さの最終処分と有効利用の現状と課題」 | 宮代町 | 倉田泰人 |
| H23. 2. 4 | 電気安全と省エネルギーを考える集い 「今なら地球は助かる～温暖化を防ぐために直ちに行動を！ ～」 | 水戸市 | 須藤隆一 |
| H23. 2. 4 | 本庄市立旭小学校あさひ環境フォーラム 「地球温暖化とエネルギー」、「生物多様性・希少生物」 | 本庄市立旭小学校 | 竹内庸夫 嶋田知英 |
| H23. 2. 5 | 新河岸川におけるアユの生態と漁場管理について 「埼玉南部漁協朝霞支部」 | 朝霞市 | 金澤光 |
| H23. 2. 8 | 坂戸保健所 医師臨床研修 「地球温暖化について」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H23. 2. 8 | 羽生実業高校「スペシャリストに学ぶ」事業 「水草再生と水環境改善」 | 埼玉県立羽生実業高校 | 田中仁志 |
| H23. 2. 10 | 久喜市菖蒲地区コミュニティ推進協議会出前講座 「廃棄物処理・処分における最終処分の重要性」 | 環境科学国際センター | 長森正尚 |
| H23. 2. 19-20 | 第5回有明海シンポジウム&有明海再生に関する有識者意見交換会 「里海」有明海の構築に向けて～有明海の豊かさを次世代に～ | 佐賀大学 | 須藤隆一 |
| H23. 2. 19 | さいたま市大和田自治会研修会 「地球温暖化埼玉県への影響」 | さいたま市 | 嶋田知英 |
| H23. 2. 20 | 身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」 「埼玉の大気環境は今…」 | 環境科学国際センター | 三輪誠 梅沢夏実 |
| H23. 2. 22 | 上尾市環境推進協議会環境問題学習会 「地球温暖化の埼玉県への影響」 | 上尾市 | 嶋田知英 |

| 期 日 | 名 称 | 開催場所 | 氏 名 |
|------------|---|------------|------|
| H23. 3. 4 | 里川づくり環境学習 「身近な川について考える」 | 深谷市立藤沢小学校 | 木持謙 |
| H23. 3. 8 | さいたま市大和田自治会研修会 「ビオトープについて」 | 環境科学国際センター | 嶋田知英 |
| H23. 3. 11 | 平成22年度第二回建設廃棄物適正処理講習会 「石綿含有建材への対応について」 | 東京都新宿区 | 川寄幹生 |
| H23. 3. 18 | 本庄市立藤田小学校総合学習 「小山川と元小山川について」 | 本庄市立藤田小学校 | 金澤光 |

5.6 表彰

日本エアロゾル学会 奨励賞

長谷川 就一

表彰理由

都市および非都市域に存在するスス粒子の混合状態を水透析法と電子顕微鏡観察による個別粒子分析から明らかにし、その希少なデータはエアロゾルの気候影響評価に重要な知見を提供するものであり、その論文は数多く引用されている。また、粒子状物質による大気汚染と関係して、含炭素粒子測定法についてフィールドへの適用性を考慮した検証を行い、有用な方法を提案している。さらに、沿道から都市、広域スケールまでの野外観測に基づき、ナノ粒子から黄砂までの多様なエアロゾルの環境動態を明らかにしている。これら一連の成果に対して、日本エアロゾル学会論文賞等の高い評価を受けている。以上のように、ナノからミクロンまでのエアロゾルについて、地域から全球レベルにおける環境動態の解明に貢献し、その多くがフィールドを対象とする共同・協力研究で中心的役割を果たしている。また、本学会若手会の代表としても精力的に活動しており、今後より一層の活躍が期待される。

大気環境学会 創立50周年記念表彰 地域奨励賞

米持 真一

表彰理由

地方自治体の環境研究所において大気環境に関する研究に従事し、主に大気中微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する研究等において研究成果を上げるとともに、大気環境行政への貢献をした。

大気環境学会 創立50周年記念表彰 地域奨励賞

長谷川 就一

表彰理由

地方自治体の環境研究所において大気環境に関する研究に従事し、大気中微小粒子状物質(PM_{2.5})を中心とした沿道・都市大気汚染に関する研究で成果を上げた。

全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰

竹内 庸夫

表彰理由

永年にわたりセメント焼成炉やゴミ焼却炉を始めとする大気発生源の排出特性を中心とした調査研究及び地球温暖化やオゾン層破壊の原因物質、有害大気汚染物質の詳細な調査及び特性解析に従事し、埼玉県の大気行政へ技術的側面から貢献してきた。近年は揮発性有機化合物の有害性や光化学大気汚染への寄与に着目した調査研究を実施し、また、環境教育などの啓発事業にも多く取り組んでいる。これらの環境行政に対する寄与及び環境保全に対する研究活動等の功績は多大であった。

大気環境学会 論文賞(技術調査報告)

石川 紫⁹²⁾、唐牛 聖文⁹³⁾、竹内 庸夫、蓑毛 康太郎、大塚 宜寿、野尻 喜好、柳沢 幸雄⁹²⁾

表彰理由

大気環境学会誌に掲載された論文「砂型鑄造工場作業場内の臭気性・有害性化学物質」は、砂型鑄造工場の作業場内における臭気性・有害性化学物質約250種類の化合物を分析し、各種化学物質の濃度と作業工程による化学物質の組成変化について考察したものであり、作業場内における汚染物質の影響を研究する上で、多大な貢献をするものである。

水環境学会 論文奨励賞(廣瀬賞)

亀田 豊

表彰理由

「環境中の香料及び紫外線吸収剤の多成分同時分析手法の確立と環境中濃度の把握」(水環境学会誌)という研究論文が標記賞を受賞した。我々の幅広い日常品に使用されている香料や紫外線吸収剤(日焼け止め)が製品使用中あるいは使用後に河川や湖沼などの水環境中へ排出され、水生生物やヒトへの悪影響が懸念されている。そこで本論文では河川水や河川の底質中のこれらの濃度を測定する方法を確立するとともに、関東地方の主要な河川や湖沼における濃度を測定した。世界的にもこれらの化学物質の環境中濃度の測定例は限られており、今後これらの化学物質のリスク評価を行う場合の基礎的資料の提供という点が受賞理由とされた。

河川整備基金助成事業 優秀成果賞

亀田 豊

表彰理由

河川整備基金の助成研究として採択された、「河川及び湖沼の水圏生態系における紫外線吸収剤の汚染状況と食物網内の生物蓄積性に関する研究」の成果に対し、河川整備財団より優秀成果賞を授与された。本研究では埼玉県内の河川水中や底質中における我々の生活で使用された紫外線吸収剤濃度について、確立した分析手法を用いて県内の河川水及び底質中の濃度状況を把握した。さらに、これらの化学物質の水生生物中の濃度も測定することで、生物蓄積状況も把握した。加えて、炭素窒素安定同位体比を用いて、これら化学物質の水圏生態系食物網内での生物濃縮性についても検討した。これらの結果は世界的にも貴重な情報であり、紫外線吸収剤の今後の生態リスク評価や紫外線吸収剤の今後の開発に大きく貢献する点が受賞理由とされた。

物理探査学会 論文賞

白石 英孝、浅沼 宏⁴⁷⁾

表彰理由

物理探査学会誌「物理探査」、Vol.62、No.3、p.339-350(2009)に発表した論文「任意形状アレーを用いた微動探査における位相速度の直接同定法」が、物理探査技術の進歩に大きな寄与が認められるとして第50回(平成21年度)物理探査学会論文賞を授与された。